



白

砂

愛

護

ゴミは必ず持ってかえれ!

9/28 (月) 天気晴 風がある
原田

谷津干潟通信箱
— みんなの声 —

- ダイシャクシギ — 1羽
- オシロイシギ — 2羽
- ハマシギ — 多数羽
- イソシギ — 3羽
- ウサギ — 多数羽
- ダイヤギ — 1羽
- ヒナグサ — 1羽
- ダイゼン — 8羽

……を 観見した。
これからは、このような野鳥が見られる事を
またいいたいと思う。
ぜひに野鳥が安心して生活している場所を
とってほしいと思う。
を守るべし。

ふかんど

第63号

1981.10.3

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 ☎ 531-1666
文責 森田三郎

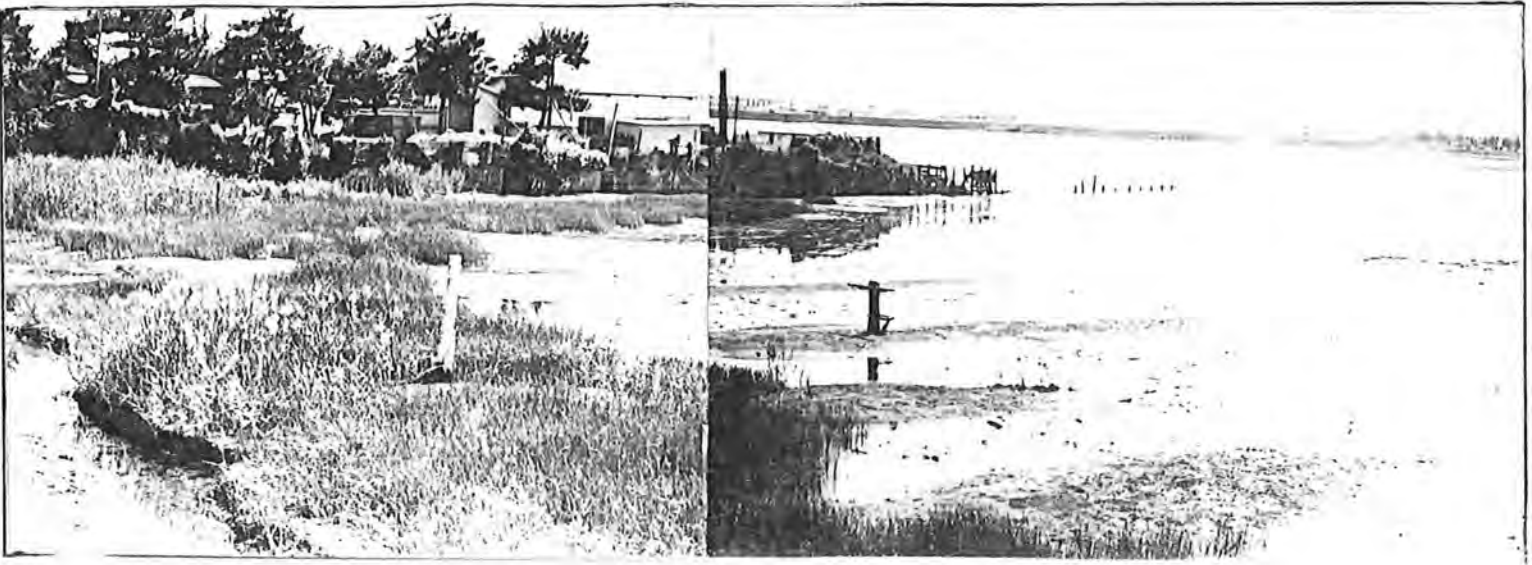
購読年2000

創刊
1980.6.3

へ今頃、母はよく私を、イナゴとりに連れ去って行くくわした。今の市場町(船橋)あたりで、イの足は
「おおど」と呼ばれていた。

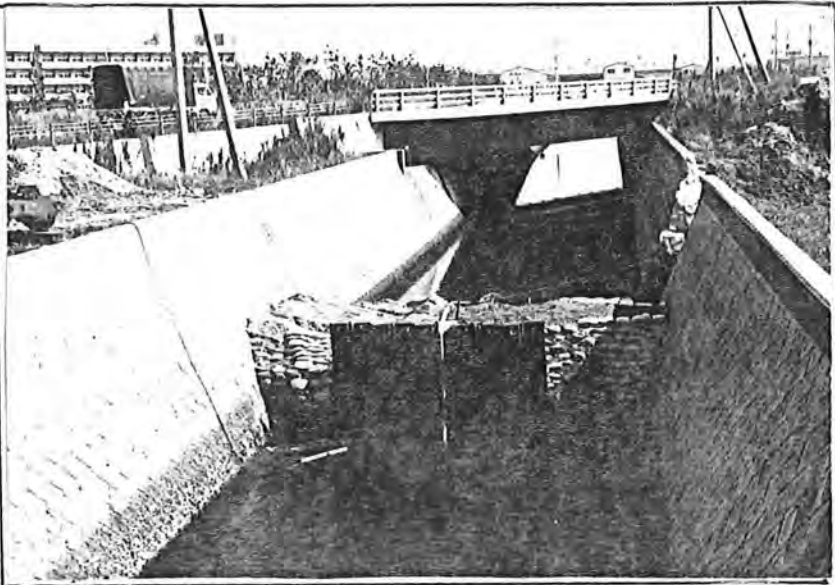
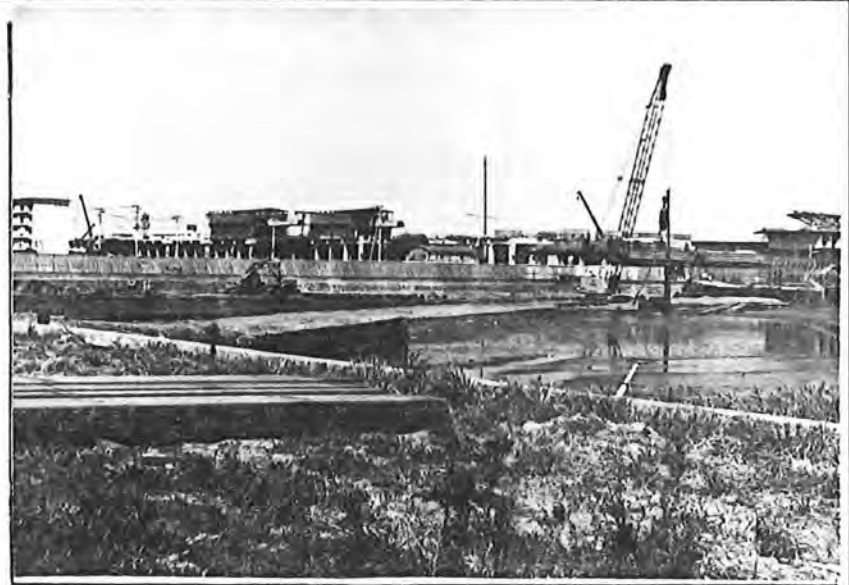
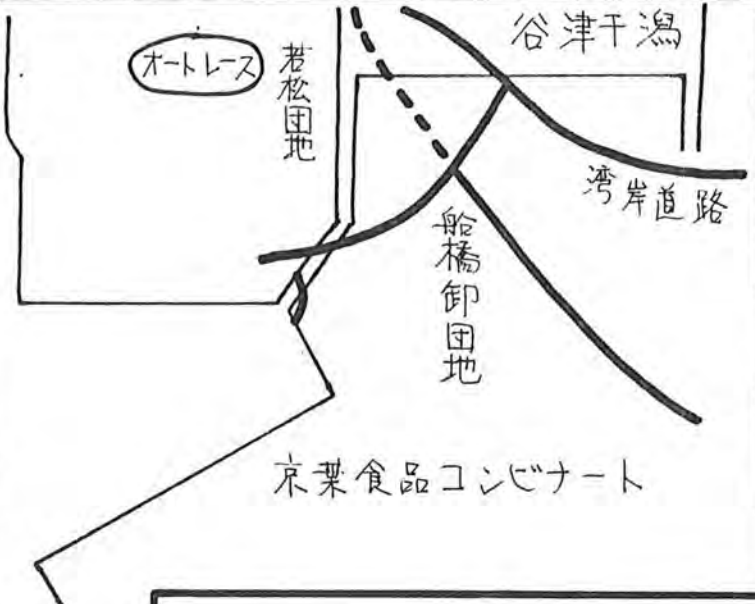
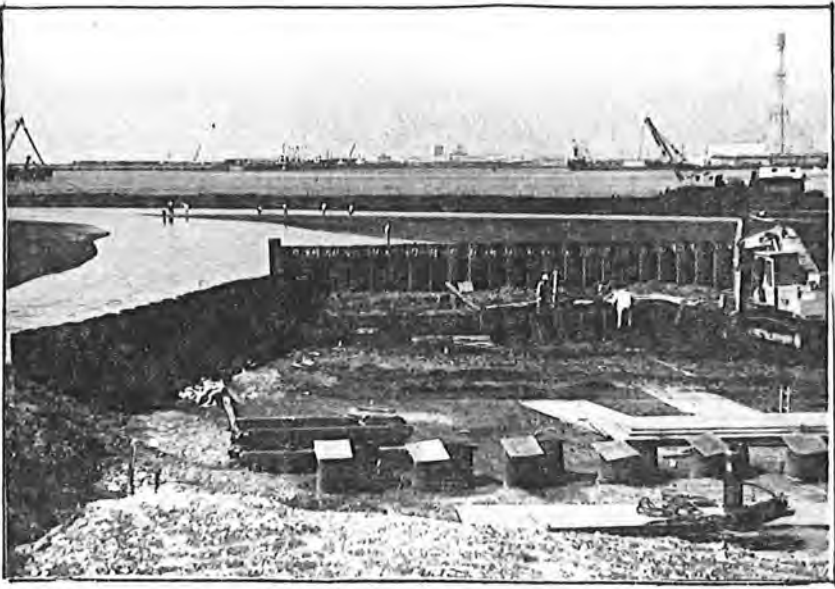
4年前と現在...
「クリーン作戦モデル地区」
記録を整理していたら、古い写真
が出てきた。看板は、当時干潟のま
わりに立てた30本の看板の一つであ
る。ここは最もひどい不法投棄物の
まさにゴミ捨て場だった。手前には
ゴミの山が4つとできていた。

52年2月 56年8月



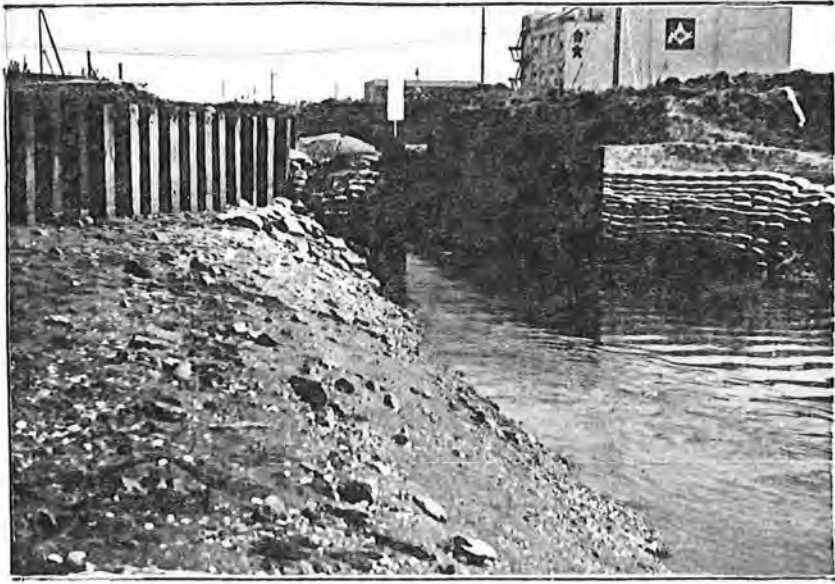
『谷津干潟通信箱』を撤去せよと、企業庁より通知が来ております。
谷津干潟の環境保全には、企業庁と積極的に協力すると約束してはいたのですか。皆さんの考えは...。

西側水路の出口 ——— 現在工事中 ——— 東1号線 (船取線の延長)

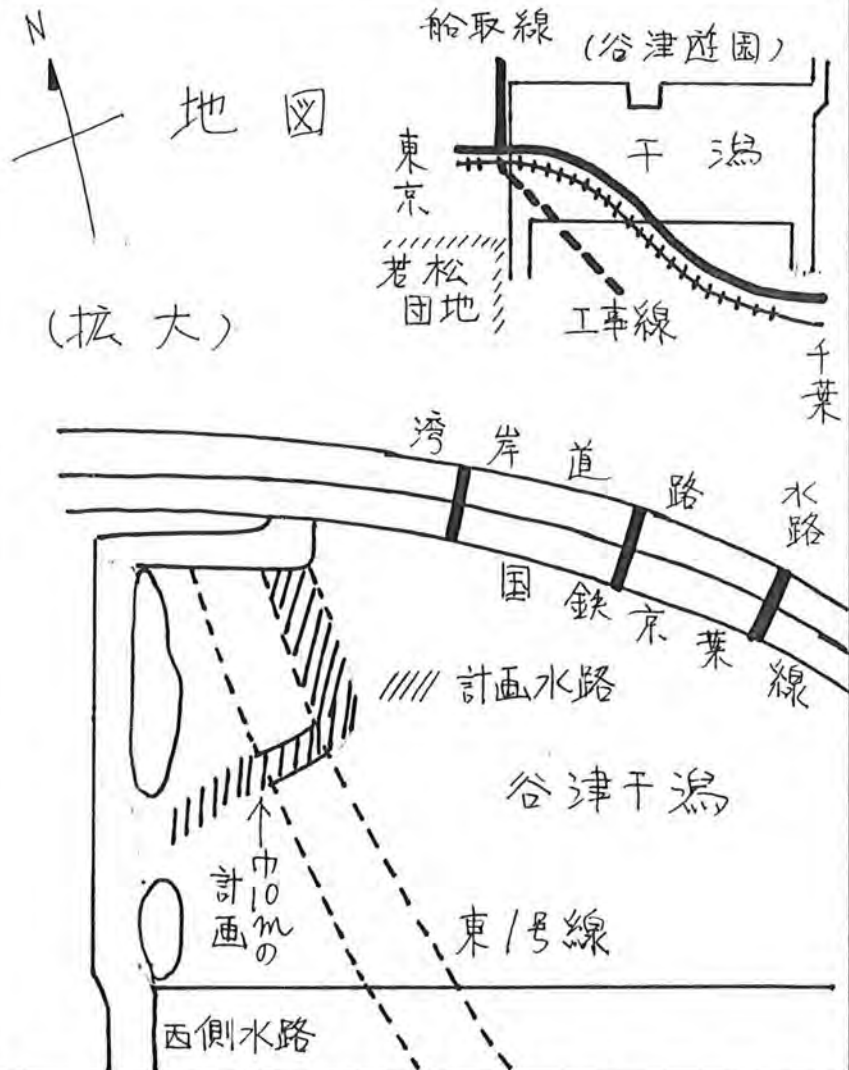


現在、エノウ袋で止めてある。右側に一時のもの。

水路が海に通じている。一時的水路の出口です。



東一号線の雨通は、三月です。又、西側水路が成り、以前の本格的な水路が開放されます。雨入と、干潟によって最重要の水路に工事がなされております。幸い、暑しい時期ではなく、その美ではある程度心配がとり除かれます。時々、現場に立ち入り、水の流水を注意します。現場の方にことわれば、立ち入る事が出来るようになりました。さあ行こつ。



立ち入りたい希望があつて、何となく気おくれする人は、森田まで連絡して下さい。

干潟の環境美化にご協力して下さい。

へんり干潟の上空を、大きな雲が流れる如く、シギやチドリ等の群が飛んでいった。

ふかんど

オ64号

1981.10.4

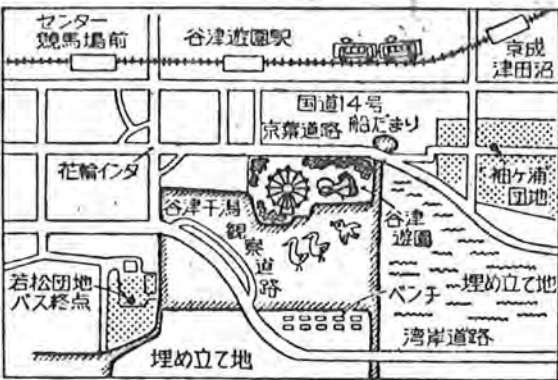
谷津干潟愛護研究会
 谷津市本北方二丁目三五五六
 〒272 電話(0473)1-1666八
 文責 森田三郎

講読年2000

創刊 1980.6.3

私の散歩道

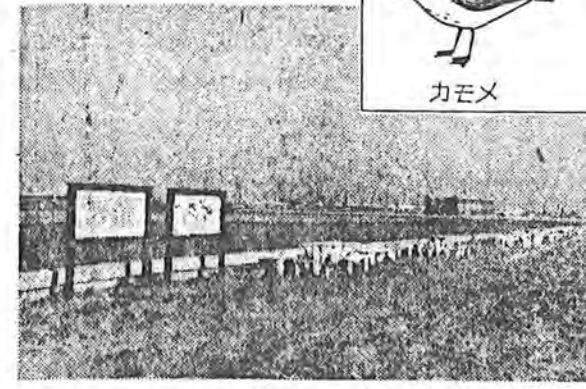
四方を眺め立て地に囲まれた干潟が、目の前に広がった。まっさらな空を飛んでいく鳥の群。その多くが、保護色のせい、肉眼では識別しにくかったのだ。さっさと持ってきた双眼鏡を覗き込んでみる。日本野鳥の会千葉支部の活動で、今が一番、谷津干潟に冬の渡り鳥が集まる時期なのだ。その主なものをあげると、ダイサギ、マガモ、マカモ、セキレイ、カモメ、ユリカモメ、シロチドリ、ダイゼン、インシギ、コガモ、スズガモ、ダイサギ、マカモ、カモメ。



谷津干潟

谷津干潟にいま集まっている主な鳥たち

- スズガモ
- コガモ
- キセキレイ
- インシギ
- ダイゼン
- シロチドリ
- ダイサギ
- マカモ
- カモメ



エサ豊富野鳥の楽園

千葉県と東京都を結ぶ大動脈、京葉道路と谷津干潟。ここに集まる鳥の楽園。秋晴水干潟。カニとカモメの群、丘くの田地の主婦が草原で食事。谷津干潟は、渡り鳥の為に残すのではありません。行政に先がけて市民はここを利用し、ボランティアによって支えられているのをご理解ください。



上の写真と同じ日。女の子はカニの穴を掘り、男の子は魚やカニ、貝をとっていました。で、はだいて水の中を歩くのが一番いいでしょう。

谷津干潟を後世に残すことは、教育権や環境権、そして入浴権の証し、なのです。

お振込は千葉銀行012-54253 谷津干潟愛護研究会

私の人生ノート

一時間目遅刻

た。五人
禁で志願者は
五十一人。全
員合格である
が、朝早く起きられない。一時間
目の算数の授業はいつも遅刻し、
心していたが
試験は等点。母や先生から随分し
一人落ちた。
それがかつた
り、朝食も食べずに学校にすっ飛
んで行く兄弟の分までゆうゆう
と平らげて登校した。ガキ大将で
水泳やメソは得意だったけれど、
これでは中学はふりといわれて断
念した。小学校の高学年を出て印
刷所に勤めたが、裏切られたので
すぐにクビ。給は好きだったので
大阪の美術学校に通ったが、先生
は校長一人でロクな授業がなく、
自分でマンガ全集を作ることを思
いつき、毎週一冊ずつ書いた。そ
のほかアンデルセンやグリム童話
を絵物語にし、図書館で人体解剖
図を写し、風景をスケッチするな
ど、かなり勉強強でしたんです。
学校はダメだったけれど興味の
あることは夢中になる多めで、
美術史も図書館で暗記するほど読
み、何とが東京の美術学校に行き
たかった。それには中学を出ない
と資格がないので、算数の試験
らしい教養を非常に興味を持
つた。飾りもさういふ世界を想
い集めた。

水木 しげるさん



自然にさからわずせいだくもせず

虫にわが道教わった

驚かすのが楽しかったです。
フアララしいでも仕方ない
ので住み込みで新聞配達をやり、
合間に工業学校や洋画研究所に
通ったりしたが、やはり合わない。
それに、やがて長隊にとられ
て死ぬかと思うと給の勉強にも
身が入らず、人並みに「人生って
何だろう」と思うようになった。
古本屋で哲学の本を探して読んで
とろろ、いろいろ考えがあるこ
とがわかって面白くなり、ニーチ
エとかショーペンハウエルとか宗
教の本も読みあさった。その結果
「ケエテとの対話」がわかりやす
い気がして岩波文庫のゲーテも
に集めた。

戦場で腕切断

軍隊でも戦場グセはなおらず、
毎日ビタの連続。命がけで寝て
いたけれど、そのうち寝坊兵と
呼ばれるようになった。腕
が弱いなら、開校したばかり
の夜間中学に入ったが、教師や
工場での労働者ばかり。フアラ
ラの頭で本ばかり読んでいろいろ
ち、とうとう退学がきた。

私の大好きな記事

私は、右の記事を読み終えて、少時
じっとしてあった。思うことなく「思う
」とは、こういう時のことを言うのだ
ろうか。こころの余韻にひたっていた
のだ。文全体、行向あるいは紙面のウ
ラがわから、水木さんの人向味がた
わってくるようだ。

た、父や母に感謝の思いが湧くのであ
った。私にとって、こののは、まぎま
ぎな一つである。「お袋、オレはな
い」のよさこびの一つ、イキも大
きな一つである。「お袋、オレはな
い」のよさこびの一つ、イキも大
きな一つである。「お袋、オレはな
い」のよさこびの一つ、イキも大
きな一つである。

こんな時にこそ私は、文字を読め
しあわせを、イキ、モノを理解し、
感得できるよさこびがしみじみとこ
上げてくたのである。イキは又、改
まることがなく、自然に、無意識のう
ちに、こころの「能力」を上げてくた
精神のビタミシンの力だ。

紙芝居画家に

口からミが出、マリアにもな
って囃も扱けた。今度モタメ
だと思っけれど、大自然の神々
が必ず生かしてくれんことを思
い、カンぱった。
歩けるようになってから近くの
無縁の現地人たちと仲よくなり、
生活は苦しい。心にも「本手
果物や食物をもらえるようにな
て頭の毛も生え、体も元気にな
る。買出しに行き、魚屋もやり、

健康が第一

戦場でも戦場グセはなおらず、
毎日ビタの連続。命がけで寝て
いたけれど、そのうち寝坊兵と
呼ばれるようになった。腕
が弱いなら、開校したばかり
の夜間中学に入ったが、教師や
工場での労働者ばかり。フアラ
ラの頭で本ばかり読んでいろいろ
ち、とうとう退学がきた。

お願ひ、皆んも何かしらものがあつたよ、下さい。私はうたえています。

こんな時にこそ私は、文字を読め
しあわせを、イキ、モノを理解し、
感得できるよさこびがしみじみとこ
上げてくたのである。イキは又、改
まることがなく、自然に、無意識のう
ちに、こころの「能力」を上げてくた
精神のビタミシンの力だ。

こんな時にこそ私は、文字を読め
しあわせを、イキ、モノを理解し、
感得できるよさこびがしみじみとこ
上げてくたのである。イキは又、改
まることがなく、自然に、無意識のう
ちに、こころの「能力」を上げてくた
精神のビタミシンの力だ。

へ今頃だ、広子潟の見えろ大きな榎に登るよ、赤土の群かどび交り、目の前でもズガ、キキーンと鳴き、
原っぱの方から、サカサカスの歌が園にのろくのた

ふかんど

第65号

1981.10.5

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三番六号
電話0476-16666
文責 木村 田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会

初めて来た時、魚だけしかかかれば、
かを見ると、うわっ、たしって喜んでいま
す。たけど、干潟に、ミューズ、カキやゴミが落
ちているのを見て、げんめつ！ 自分たけでも
ゴミを捨てる人間にはなりたくないと感じま
した。うじなどでも、よくやっていますか、せめて
残しておいて欲しいと思います。
茨山の鳥や生物、そして私たちのためにも。
クリーン作戦のみねさんへ。 M.Y

私が6年の時、来た時は、少しは良かった
この時、ワケが、さかると、うわっ、と
おや、とおもった。今、魚がはねて
いたのよ。 おや、と思っちゃった!!
たけど、いきおの時は、かにもみたり楽しい
場所です。 本当は写生に来たのに遊んでばかり
いました。 こんな所、いい所にはいつでも
きたいと思えます。 私もこんな場所を故郷に
したいわー!! Y.K

私は、初めて来たので、干潟を見て
鳥たちを ~~見た~~ 聞いたので喜んでいました。
私のいなかの海と同じ鳥がいたので、
かんげしました。
でも干潟の近くに、ゴミなどかまひて
いたので、もっときれいにしてもらって、
干潟もよくなると思います。 二つからせめて
かんげして下さい。 T.F.

前にも来たことか、おんてすけれど、いっせ 思うとは
カ、ん、ミ、ス、ヤ、フ、ミ、カ、落、ち、こ、る、の、こ、ろ、と、い、う、こ、ろ、に、
というところ、自分も、落ちたりにして、まうことか、あるの
気をつけようと思えます。 今でも魚が、おんてして、
います。 もと、生物、を、さ、す、と、い、い、ん、じ、や、ア、カ、と
思えます。 何となく、さ、か、ある、と、い、い、ん、じ、や、ア、カ、と
思えます。 二つからせめて、かんげして下さい。 M.K



最近この干潟も少なくなるという
うわさですが、私はこのすくなく、鳥たち
のすみかをも、こわすのには反対です。
昔、私が2、3年前ころここにきて、
しおひかりなどをやめたのを覚えています。
そして、私の神奈川浦田地から、このうめ立
前のすかたを見つけたことと.....
ここから、よくくると思いますが、
この時、まかにばも、と、も、と、き、い、に
な、つ、て、い、い、い、い、と、思、い、ま、す。 A.C

谷津干潟通信箱

9/30

習志野三中の女子生徒さんたちのことばです。クラスで、干
潟の写生に来りました。ひとしきりそついでして、写真の生
徒さんたちに「何か、ここにきて感ずるところを書りて下さ
い」と、頼んだ。ゆたしにうなずきながら、すぐ書いてくれた。

話しが終りなうちに、どう書き始めました。すぐに、素直に書いてくわいて、私はうわーかたのであ

<シリーズで出ていきます>

セイタカシギ物語

(朝日新聞) 53.10.18



谷津干潟近くの埋め立て地にやってきたセイタカシギの親鳥。細長い脚とスマートな体が美しい
—千葉市の干潟を守る会提供



舞い降りたイキな姿

この珍鳥の子育てを見守っている
▼▼▼▼▼

美談

谷津干潟のセイタカシギ

>1<

工場群が立ち並び、京葉線埋め立て地の一角、谷津遊園の隣り、この干潟に、四季を通じて様々な鳥の楽園がある。地元の人たち「ここは昔月を匂いこの干潟近が「谷津干潟のひがし」と呼ぶ。周囲には埋め立てられ、海岸道路が突っさる。植物(せいさ)も、まれに観察したことが

ない鳥だったとがった細長い、れをまじになり、渡りの一くちほし、スラリとした白い体、種とみられるようになった。しに黒い羽の衣装、何よりの特徴、か、まだまだ珍鳥だ。ドリは、リンクの非常に長い脚であ、気遣い、たちは珍客の到来に、る。さうさ、専門家に鑑定して、もつたところ、このイキない、数日間の観察の結果、二羽は、ごちのまは、わが国ではめったに、天晴で、どうやら筑波の準備に、たにお目にかかれたいセイタカシギだった。

野鳥の会のメンバーは、色めきたった。これまで国内でセイタカシギが巣をつくってヒナをかえした例は、愛知県海部郡弥富町鶴田干拓地で、五十年と五十二年の二回しか観察されてい



少しでもきれい)にしたいのです。皆さんの力をかして下さい。

環境美化の為、大きな看板1つ、小さな看板6つ立てました。

本当は、こういう看板など、必要としないようなら、それが一番いいことです。クズかごなんかいらないと、野鳥の会(鳥)・干潟を守る会の人(人)は言います。か、具体的、現実的(現実的)な手段を考えた(考えた)で(で)よ(よ)か(か)。



「野鳥の楽園」で遊ぼう

（朝日新聞）
「谷津ひがた少年団」きょう発足 1979.5.5



東京湾部に残された最後の野鳥の楽園「谷津干潟」で、自然観察や野外活動に親しむ「谷津ひがた少年団」が五日のこどもの日「にぎわい」をあげ、干潟の保護活動を通じて「千葉の干潟を守る会」「日本野鳥の会千葉支部」などの会員が指導に当たることが、野鳥観察のほか、干潟のカニや魚をつかまったり、周りの理め立て地ではジャンクル（ごみ）を拾って、遊びの精神を養う。

「日本野鳥の会千葉支部」と「千葉の干潟を守る会」は、それぞれ毎月第三日曜日に「谷津干潟」で、野鳥観察会を開催してきて、参加の中心が、中学生が中心となっていた。

伸び伸び自然の中で ジャングル遊びや魚とり

「小かんど」は、イの為の方便なのです。谷津干潟愛護研究会と環境美化委員会と、YーFーYの働きも、みんな、干潟を守りますか。

皆さん、私たちの本当の「会報」は、谷津干潟と水自体なのです。少なくとも、私はそう思っております。皆さんはいかが思いますか。

はざまみふろ
たいそうガニの
まえにては
山なすことばと
朝の雨路方り

「谷津ひがた少年団」はこうなりなされていくのかかわり、すくつかといえは、大人向けの集まりだった。このため、会員の間で以前から「自然に親しむ会」の少ない手もたざらに、このように集まりが必要だ」との声が出ていた。

「谷津ひがた少年団」はこうなりなされていくのかかわり、すくつかといえは、大人向けの集まりだった。このため、会員の間で以前から「自然に親しむ会」の少ない手もたざらに、このように集まりが必要だ」との声が出ていた。

「谷津ひがた少年団」はこうなりなされていくのかかわり、すくつかといえは、大人向けの集まりだった。このため、会員の間で以前から「自然に親しむ会」の少ない手もたざらに、このように集まりが必要だ」との声が出ていた。

子供たちが、土人小屋づくり、ペンギン塗り、テーブル・ベンチの製作と修理、看板づくり、穴ほりなどをよここんでやったのは言うまでもないことである。YーFーY、泥だらけになつて、カニや魚などをとりに行くのであった。

ただ、私が見ていて不思議に思ったのは、谷津干潟に接して自然保護関係者が、子供たちの生命力、好奇心、創造力にうとく、対応能力が貧弱だったこと。

問題は子供ではなく、自然保護団体であった。驚き、

ふかんど

第66号

1981.10.6

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五〇六
〒272 電話0476-31-1666
文責 森田三郎

2000 読者

創刊 1980.6.3

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会



谷津干潟を観察する子供たち

みんな、とってとよくきこ
うことを聞く子供たちです
。リーダーの指し図どおり
に行動していた。
実は、私もリーダーの一
人だったのである。でも、
いうことを聞けばきく程、
私はさみしかった。ようし
ついで子供たちに、又、そ
うさせてついで自分に、ソフ
どむなーさや淋ーさがあつ



た。しかし、よくよく考
えれば、現在ではそれ
やむおえなのでは、と
思った。だから、その思
いは、じつと自分一人の
心に収めておくべきで、
他の誰にもとすかけると
のではなると、よう考え
られたまてに、ずい分時
向かかった。それにし
て子供は多くくるのだ。



最近、売ることばかりではなく、地域
に根づかせるようです。



タウンレポート

●バードウォッチングしてみませんか。
谷津遊園の南側、谷津干潟は微生物やゴカイ、カイなどが生息し、野鳥の最適な餌場。シロチドリやハマジギなど10種以上の野鳥が集まります。休日のひととき、バードウォッチングを楽しんでみませんか。毎月第3・第4日曜日の午前10時から谷津干潟自然教育園で「日本野鳥の会」による観察会
が開か
れてい
ます。

高

津田沼
高島屋



↑お金はとらってりません、ご安心下さいませ。↑

八植木屋のじいさん、カニをカゴにいっぱいとりに、ヤホをこやりにしていた。とろとろと書いていた。✓

ふかんど

オ67号

1981.10.7

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方三ノ三五六
電話 0476-1-6666
文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3



1980年7月 幕張埋め立て地(A地区)。
NHK撮影班(三浦カメラマン他)と共に。
千のひらの上にはいるのは、コアジサシのヒナ。
主婦は、習志野市谷津に在住。環境美化委員会の員であり、コロニー見まわりとしてくましました。

主婦と埋め立て地

渡り鳥にとっては、恰好のすみかであったかつての埋め立て地と、日毎にイヤのすがたを変えてゆく。

開発に追われゆく彼らは、シギ・チドリを中心に、巣を作る所や餌をとる所がなくなる、見られる数と激減してしまつた。

こわい姿を消してゆく渡り鳥の中にあつて、コアジサシは最たるものである。右の、写真の如き光景は、ヤホで、ソフの日にか、一・二年のうちにも夢物語りとなるであろう。

過去七年間、東京の荒川から、千葉市の花見川にかけての埋め立て地で、コアジサシ・シロチドリ・コチドリの巣の数を調べて来た。そのうち、葛西、京葉港

地区は全滅してしまつた。浦安にごく少数、イヤで最も多りとされた幕張においてと、磯辺方面のごく一角へと逃げやらせてしまつた。

調査は、激しい精力的なものであった。私の如き人間は、おそろしく二度と出ることにはなかつた。

思えば、ずいぶん多くの人を埋め立て地のコロニーに案内してきた。イヤの中で、最も多くの人を魅きつけたのは、コアジサシであった。サーベルのようなくちバシ、白くスマートな体、黒いベレー帽をかぶつたような頭、攻撃的でありながら、かつ開放的で、人のすぐ目の前でも、抱卵・採餌、育児、交尾、グイビングなどを演じてくみからだ。とくに主婦の方々は、みなコアジサシのフアシ、とりこになつてしまつたのであつた。

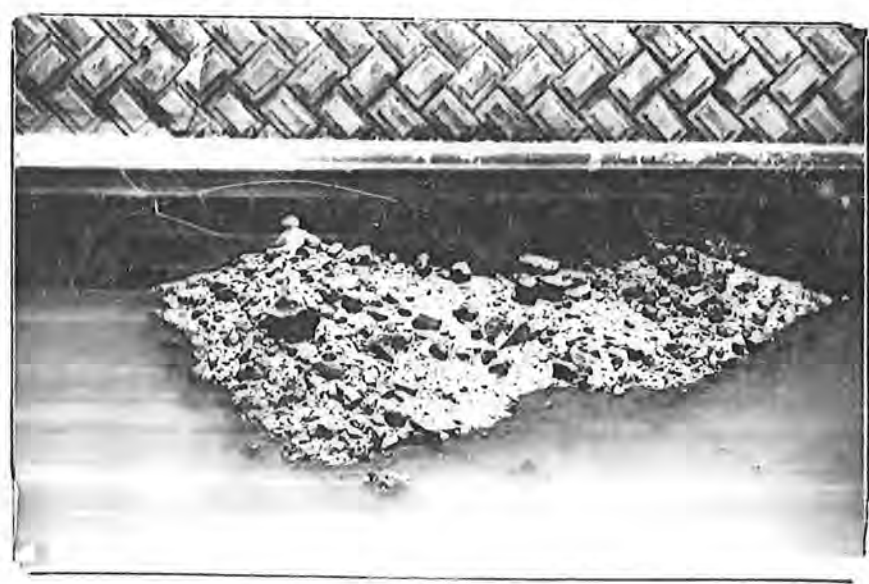
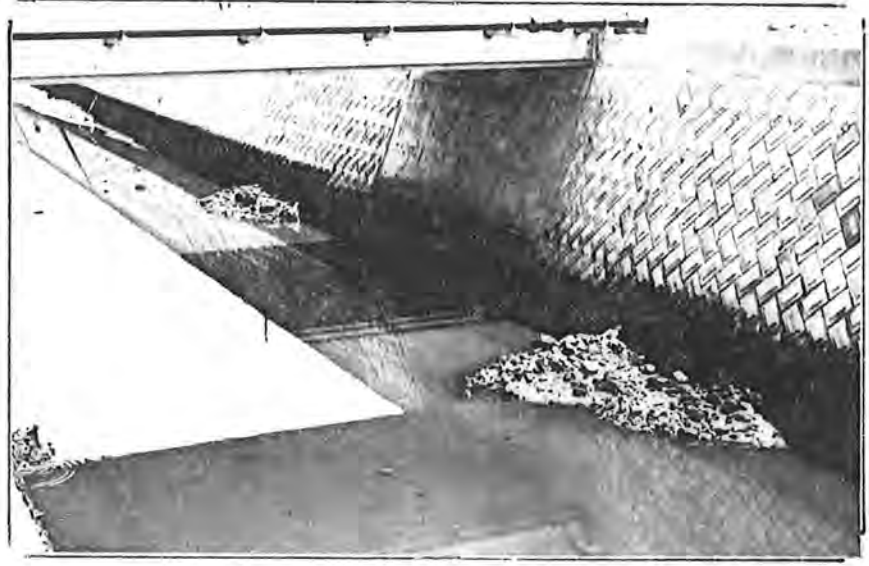
しかし又、最も被害を受けたのもこの鳥であつた。野鳥関係者からと、何ら保護さ小なかつたのである。NHK・TVロータリー班の記録は、ヤがて貴重なものとなつたのであつた。

企業家の急慢

管理責任者の企業家 か何故こんなことを?

水路は、谷津干潟にとつて、その保全に重大な所です。伊真にある、この水への産業

廃棄物は全て、企業家関係の工事によるもの。当所に対しては、再三にわたって、水路をもっときれいにしてくれようお願ひしてあります。尚、どうしてとせざる時は、現物証拠として届けることをすでに通知してあります。



東の確認

正確には、卵を確認したのは、鳥類保護連盟の柳沢氏である。私は、オス・メスのついで現地へ案内したのである。イーワすぐ、山階鳥類研究所の人を引き連れ、標識調査の午後のすす為、幕張のコロニーへと

帰って、ついで時雨を決めて、向った。その向に氏は見つけてくれたのである。菅束するであった。ことは、ほぼわかってきた。少時前に読売の松永氏が交尾を確認し、いっ所はごくせまり所であったし、その姿を五・六人が見ていたのだ。

(朝日、53.10.19)

美空ひばり

>2<



五月三十一日、日暮野の幸野支部、千葉の干潟を守る会の会員は、まさに記念すべき日となった。二羽が獲れた。

たましい威嚇の叫び声をあげた。その夜二つの会の会員たちが寄り集まって、ヒナを無事に育てるに努めた。作戦会議を開いた。営巣地はヨシのかけがあるが、だれでも簡単に近づける場所だ。周囲は、埋め立て地の道路工事の騒音がうるさい。車を走り交す。鳥は砂地を少し掘り、貝殻と枯れ葉をおいただけの粗末なもので、水はけの悪い埋め立て地なので、大雨でも降ったらひどい。野火も出火しているところだ。こんな環境の中で、夫妻があらがうに卵を温め続けるかどうかが、不安は大き

愛の巣見物を警戒

わしている光景を、たまに野鳥の撮影にきていた方々が自覚したのだ。これで、セイタカシギ夫妻が、この荒地に子育てをやってきたのも「クイー」ともよばれる



雨の日も風の日もただ黙々と卵を抱くセイタカシギのめす。写真はいつでも「千葉の干潟を守る会」提供

見つけた四羽の卵

工業化と自然保護 —干潟を見つめて—

森田 三郎

(1) 人間の体と自然界

我々は自然界に存在するすべてのものによってつくられている。万物は我々個人の中にある。こゝも、もっとも良く組織づけられて活動している。

人間はあらゆる自然が、一大集成されたもので、とてつもなく広大なパノラマである。実に個人ひとりひとりこそ、動き・走り・喜び・苦悩・歌い・祈り、そして力闘する自然である。

この個人の体をつくっているものは、かつては、さかまく風の中を羽ばたく渡り鳥のつばさであり、七色の虹であり、波とうのとどろきであり、夏の空に湧く雄渾な入道雲であり、真赤に噴きあげる溶岩であり、ヒマラヤの氷河であり、北極のやみに輝くオーロラであり、森かげにひっそりと咲くゆりの花であり、冷く清き泉であった。人間こそ、もっとも危険とロマンに満ち満ちた生ける自然である。

我々の眼に映るものはすべて、かつてはだれも個人の体をつくって、りっぱに活動していたものばかりである。海にあるもの、地にあるもの、空を飛ぶもの、自然界の万物は個人の中へ入りきたり、全身の機能をこなしてあらゆる活動を成し、そして出てゆく。聖書のことばの如く、文字通り、人間は土よりできている。人間は自然の一部でも、たんなる一員でもない、それはまちがっている。人間は自然の全部であり、全体である。

自然界の万物は人間の中にこそ見い出され、そのしくみも、法則も、そして謎も、これらはみな、人間の中に存在しているものであり、我々に一身によく兼ね備えられている。自然界の神秘も驚異も美しさも、はてしなく広がる宇宙の広大さも、人間という、巨大な未知の大陸の中に見い出されるものに比べれば、もの数ではない。人間にはこのすべてが脈打ち、息づき躍動しているのである。ある人々は自然界にある

すべてのしくみが人間の体の機能にも見い出されると感心するが、そうでなければおかしいのである。

自然界に存在するあらゆるもの、植物も動物も、惑星の運行や四季のめぐり、そしてダイヤモンドの結晶の如きですら、→これらはみな、個人の中にある人間を理解する手引き書である。人間は自然界の万物の、文字通り生きていた過去帳なのだ。人間は宇宙の中心であり、原点であり、すべてである。

(2) 人体とうみの防衛機能

干潟が、しおみずをきれいにしてくこうとする働きとはまた逆に、しおみずも干潟をきれいにしてく。干潟としおみずは、あたかも我々の体の機能を思い起こさせる。

それは、動くしおみずは体内を流れる血液であり、静止している干潟は、心臓や腎臓、あるいは肝臓の如きものである。

干潟である我々の内臓器官が、健康なものであり、より強じんにして良く働くならば、我々の体内を流れる血液は、よりきれいに成り、全身にくまなくゆきわたり、活発に流れる。

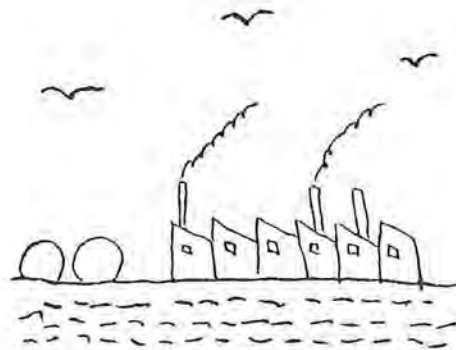
またもし、我々の血がきれいになるならば、より多くの酸素と栄養を全身の組織にゆきわたらせ、各器官のしくみと働きをして、より活発に、より健康なものとするのであり、かくしてこそ人体は、暑さ寒さ、疲労や睡眠不足、空腹や渇きなどに対し、よりよく対処し、克服してゆくことができることになり、平安、精神の集中、鬱気、熱望する力をおのが、手におさめてゆく。現代文明の生活がもたらす数々の挑戦、ストレス、騒音、不安、困苦は、我々人間が、おのれの心身をよく自然保護たらしめることによって適応し、乗り切ることができるのである。うみもまた、これに変わるところはない。

現在の東京湾のように、たやすく赤潮や青潮が出現するのは、とりもおさず、汚染という外敵の攻撃に対して、抵抗力や回復力、そして防衛機能がいちじるしく減殺されてしまっているからである。埋め立てによる干潟の破壊は、干潟が本来持っている浄化能力、汚染に対する適応力や回復力を次々と失わせていったのである。あたかも人体が、バイキンの侵入や、寒暑、疲労に対する抵抗力に欠けるが如くである。我々現代にはもはや、往時のあの古代人が持っていたような、心身の勇氣と豪胆さはない。特に都市生活者における、心地よく温度調節された冷暖房室、交通の便利さ、車の普及、多種多量の食料、娯楽施設、あるいは医薬品の多用は、個人が本来備えている、自然現象に対する適応能力や抵抗力を、防衛機能などを活発に働かせなくともすむようにしているのである。もし人体がかくのごとき影響を日々受けるならば、人間形成や精神機能に何ら支障が生じないですませられるだろうか。

現代人が疲れやすく、すぐカゼをひき、精神が軟弱なのは、何が原因なのか。赤潮や青潮はうみのカゼであり、病理現象であり、サインであり、うみの絵言葉なのである。しかしうみは人間に伝えるべくことばを持ってはいない。ただ魚やカニたちなど、そこに生息している生きものをして語らせている。

(3) ま と め

人間もうみも、現在あらゆる外敵にさらされ、



とりまかれています。人間においては適応能力、干潟においては浄化機能をもって、その時その所で毎日対処している。すなわち人体の機能のそれと同じく、干潟も健闘本位につくられているのである。人間の体をつくっている大地の土ですら、いためつけられながらも、おのれ本来の働きをしようとしているのと同様である。

自然を汚染し、破壊し、自然がもともと持っている機能を狂わせてゆくならば、直接的あるいは間接的に、人間の物心両方に対して、何らかの悪い結果をきたさなくてはおかないだろう。自然を破壊してゆくことが、やがては我々人間を衰退させ、破壊してゆくというのは、決して理屈上のこととか、単なるおどしではなく、事実であり、科学であり、何よりも自然自体がそうだと知っているではないか。

人間と自然との関係はどうかあるべきかなんてオツにすましたようなことを言っている人たちの多いが、何をのん気なことを言っているんだ。関係だとか、対してだとかなんてものじゃない。人間はそっくりそのまま生きている自然ではないのか。そんなこと言うこと自体根本的にまちがっている。自然保護の考えや、その舞台があまりにも小さすぎるのである。有害ですらある。

人間は生ける水であり、空気であり、光であり、色であり、音であり、そして大地である。人間—自然なるものを、たんなる経済や工業開発からのみつくり出してはいけぬ。つくり直し、ぶち壊し、変革し、乗りこえなければならぬのは工業や文明、主義や我々の考え方であって、決して人間ではない。

私は自然保護の野口英世や西郷隆盛を待望している。今その人はどこにいるだろうか、どこから登場してくるのだろうか。現代文明の行く末を照らす松明を手にし新しいビジョンをひっさげて、まったく予期しない分野から我々の前に登場してくるかも知れない。

夕日に赤くそまつた干潟に群れとぶソングヤチドリ。それを見る人の心情。それは地球が太陽のまわりを回ると同じく、等しく真理なのである。

ふかんど

第68号

1981.10.8

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五二六
電話 0476-1-1666
文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

干潟で見ると帰る時、方向はかすみの彼方の森の形や、海の所々に立ち立つる机、曲り貝合や貝のフ

セイタカシギ物語

一日と

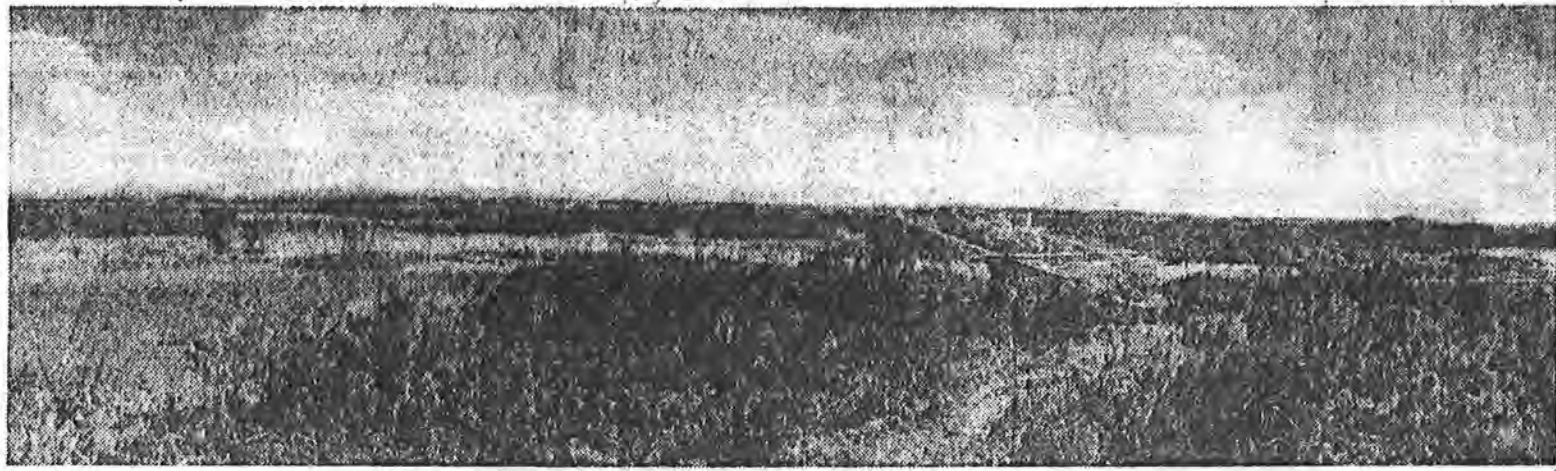
またいぢ日と積みゆりかん

今日だけと

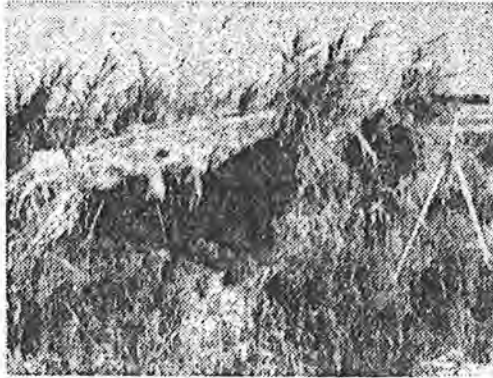
また今日だけとはと

日記に書かしてゐる。当時の私の心境と行動である。本当に苦しかった。真夏の埋め立て地の日々である。コアジサシ繁殖調査とセイタカシギの見張り、この二本立ての毎日であった。

私はまだ、仕事ができな身体だった。脚



セイタカシギが営巣した埋め立て地の全景。中央に森田さんが通った見張り小屋がある。(◎は小屋を指す)



森田さんが通った見張り小屋が、干潟の干潟を守る台提供



気付かれず見守る

セイタカシギの本格的な繁殖が始まった。自中ごろ、埋め立て地の隅の隅に、アシなどを利用して奇妙な小屋が出現した。よく見ると、草履のすき間から望遠鏡みたいなものが突き出ている。望遠鏡だった。セイタカシギは人間に敏感で、ちよつとも逃げへた。けたたらしい鳴き声で威嚇してゐる。時には超特急飛行で耳元をかきかきしてこられた。見張りの会談に気がまわれば、卵を放棄する心配があった。このケリラ小屋は「干潟の干潟を守る会」のメンバーの一人、森田三郎さん(◎)川市在住)が、セイタカシギの繊細な神経を刺激しないために考案

美濃
谷津干潟のセイタカシギ

>3<

出した野鳥観察施設だった。効果は上々だった。セイタカシギの夫妻は、メンバーの見張り人に見つかるのを恐れて、卵をあたためようとこらへた。それからというもの、森田さんの小屋通いが続いた。雨の日も風の日も。しばしば悪寒のが前になつて消まり込んでしまつた。セイタカシギの営巣地には、実になくさんの侵入者があつた。去、日曜日、の、押しかける釣り人、ラジコン・マニアや土

本作者員……。森田さんはそのたびに、事情を話して営巣地に近づかないように頼み込んだ。十五匹を超す野犬の群れ、ネコも来た。それも追っ払つた。メンバーから「原住民」と呼ばれるまでになった。今は跡形もない、生まれながらの谷津のきれいな海苔自然を、少しでも取り戻したい。セイタカシギには、そんな森田さんに強く訴えるものがあつた。

がなおりきつておらず、ビッコをかいていた。骨を固定する金具がとれなっていた。乗り物はみんなだめで、駅から埋め立て地まで、ヤーテ又駅から帰ってくるまで、すべて歩きだった。リュックサックに洗面用具、ノートとペン、双眼鏡、下着、食物などを入れ、その上に毛布をくくりつけてピョコタン——歩くのだった。

あの広い埋め立て地、とーつまづいたり、ぶっつけたり、ドロや砂に足をめり込ませてかゆった時、完全にフワフワの骨が離れたり金具がズレたりしたら、どうしようか、その時は私にはいんなんか風がいつとつきまよつていたのである。

夜10時すぎに、用意をして家を出た。埋め立て地の草ムラ、建築資材のかけ、工場や倉庫の軒下などに寝た。夜が白々と明けた頃、寝床、かざり起き、歩いていた。夏でも早朝のモヤは冷たく寒く、コレニーを、草原を流れるモヤの中を一人、身にもよって歩いた。何にも見えす何の音もせず唯一人。4時半前後から9時半頃まで調査。ヤーテ、葛原、湊安、あついは葛西か、セイタカシギの所、波の竹とヨシとガマで作った休むの小屋へと、ぐったりとして着くのであった。身を隠す物として何もない。私は足をヤミすのた。

へあるヨネギリの巣を見つり、ヒナをりいした。次の日行きたら、赤アリがビッシリたかっていた。Y小以後ヒナには決って敵わなかった。V

ふかんど

号69号

1981.10.8

谷津千潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五十六
 電話(0476)311-6668
 文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

谷津千潟通信箱
 「みんなの声」

ニこは、さいこうの景文んびす。
 みんなで力をあわせて、
 水をきれいにして、や島をかんと
 したいです。いつか水がきれい
 なることをねがいます
 Y.S, T.1

8.56.9.15. 晴
 ここに来たのは、二度目だけど、動物園なんかでしか見れない鳥が見れるので、
 面白いと思います。この場所が、いつまでも残るといいですね。
 船橋市 鶴見

1981.8.56.8.31 晴 AM 8:30~12:00
 谷津千潟に今回始めてきた。友達と2名で
 埼玉県浦和市大崎 2415 遠藤義孝
 埼玉県交響隊 会長
 8.31. 11:30
 始めて来たが、埼玉でも見られるし、ギケドリ類も見
 られるので、是非来て見たいと思います。
 埼玉県支部 竹内治寛 (浦和)



こんな看板が
 谷津三丁目の前
 * * * * *
 今年の5月頃、習
 志野市が立てました
 ・二本。三丁目の
 前、堤防と住宅の
 向の草地にです。
 その間一帯にあ
 ったゴミを全て清
 掃し、地方ゴミを

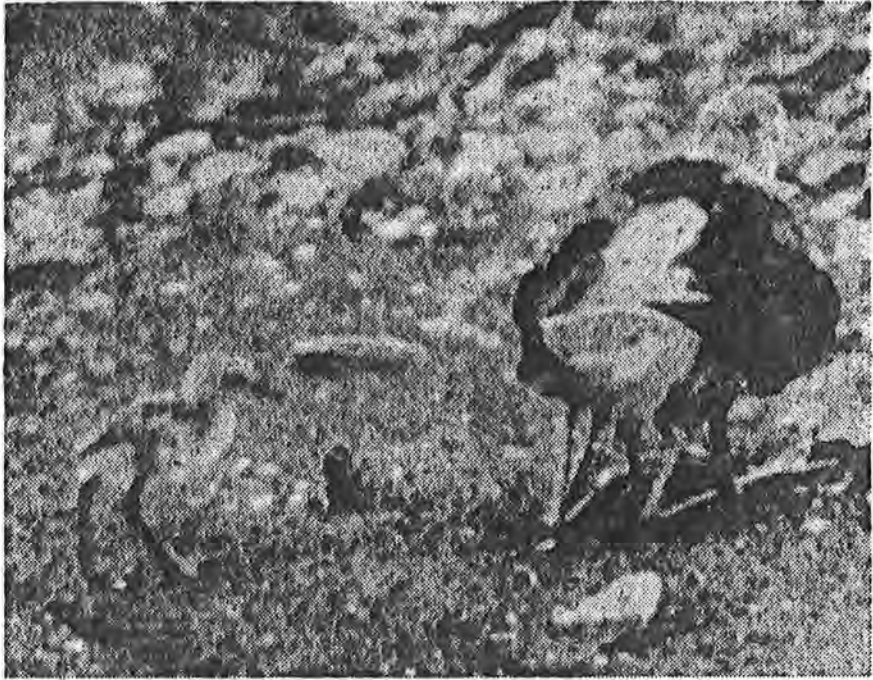
ー、木もかなり植えまわりました。でも、
 植える人が少なくて、ゴミも殆んど
 投げた人がいなくなりましたし、車もよこ
 に入れたことができません。市の人の
 話では、緑道にするらしいとのこと。

「谷津遊園存続に財政援助を」 周辺 署名添え県会へ請願書

習志野市谷津の「京成谷津遊園」周辺の住民(福田雄雄代表)が二十八日、同園の存続を求める二百六十二人の署名を添えた請願書を県議会に提出した。
 請願書を出したのは同市谷津三丁目、同三丁目、同六丁目の三町内会の有志で請願書では「子供たちの夢を育ててきた谷津遊園を存続することは大人の責任である。また同園は谷津住民の避難場所指定されており、つぶさないで欲しい。存続のためには市、県、国が財政援助してはどうか」と要望している。
 谷津遊園は約二千三百億円の負債を抱え経営危機の京成電鉄が四町内会の有志で請願書では「子供たちの夢を育ててきた谷津遊園を

(毎日新聞) 1981.9.29

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津千潟愛護研究会



セイタカカシギ物語

ウーウー髪

さーやさーやと引かかっつ

日暮木のフロニー

千ドリ鳴く

草と竹の小屋は、合計三つ作った。セイタカシギが、生長して行くに連れ、生息場所を変えていったからである。ヒナが大きくなると共に、より広の水溜まりへ、より広くヨシ野のあつえへと移動した。

私は毎日疲れた。強烈な夏の太陽と海風から、小屋は、疲れた体を横たえ、休ませてくれたのであった。小屋からはセイタカシギは見えなかった。離れ作ったヨシ野は、鳥を見た為ではなく、近づく人間を見つけた。親とヒナの行動は、誰かの車にのせてとらわれない限り、全くわからなかった。

夏風と

草はグーおかせ鳥のこえ

ヨシ野のすわめま

幼き日

小屋の中から、毎日私は、夏の空と雲、草ばかり見ていた。いつと、ポソポソと見つけていた。立ち上がると、海と葦の半島が山々、沖に浮かぶ輪、コンビナートがけだすように見えた。小屋をつくってワラコカホ、しお風に吹かかっつあつものはユラユラも、又、互いにこすれ合っつカサカサ音をとたてていた。セツカとよくすぐ頭の上に来て、

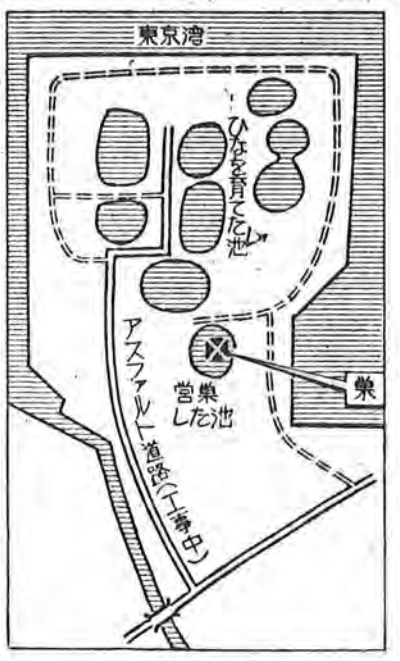
「チヤック〜」と鳴りついていた。ヒバリの声は断えつこもなく、夏の空りゆつくり施回しなから、「ビイイク〜」ついていた。波打ぎわがマツトレスを拾つて来てつ小屋の中に入り、寝ころびつて、白く雲を見てつると、「ああ、あの頃とあんな白く雲が湧つてつたつけなあ〜」と想つ出すつた。

美空



「アッいる」。六月二十五日、美空(おんぞろ)の二天は、黒い羽根のヒナを羽見たのだ。小南が降つたりやんたりの日だ。セイタカシギのメスが、オス、大きな、このひなのるくらに目だつた。いつも通り、見限りと種卵を交代した瞬間、巣の中に、ウソ毛の体は灰色で、黒の斑にやつてきた千鳥の千鳥を守る会森田三郎さんこと園松俊

すつくとヒナ四羽



点がある。おなか白く、足は黒い。わが子をこつつかつ親鳥の配慮と思つて細く長つた。驚いたことに、ヒナたちは池の中に入ってエサを食へ始めた。親鳥からエサを口つしでもらつたり込んでいる。黒は最後まで見なかつた。見限り人たちは、そのけなげな自立心にちよちと感心した。しかし、四つの新しい命が、荒涼とした埋め立て地の中へ出てくる。果たして生き延びつていくか、不安はつきなかつた。

へとた目を、干潟から持ち帰るのは大変だ。でも、母のよろこぶ顔を見、ソローよに夕飯をさす時、ぜん
な疲れどなく、うきうきと帰るの、は大変だ。でも、母のよろこぶ顔を見、ソローよに夕飯をさす時、ぜん

ふかんど

号70号

1981.10.9

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五番六
電話 0476-1-6668
文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3



自然緑地(31m)の看板

?

? (ヘトゲの奥)

この間、会員の長塚氏がこう言うのであ
る、「愛護研究会はさあ、愛護のほうはモ
ノスケエーけど、研究、のほうはちょっ
とサッパリだなあ」と。反省しております

。これより、アカデミックにして、学究的な雰
囲気のある会報にしていく。努力、さしてリキ
ます。ただし、努力、ですから。それでは皆々
んの原稿、お待ち申しております。かーこ。

クローバー

? (花は黄色)

ムラサキシユクサ



卵からヒナになった時は、本当にうしろかいた。安心ということである。動けなりの卵、動けるようになったから。親が卵を抱えていたところは、直径30mぐらいのくぼ地であった。水たまりで、水気をたっぶり名んた地面が高さの水面より15cmぐらゐ出ている所。水尻まで50cm。イーイーの水たまりには、水の出口がどこにもないのである。強い雨が降ったなら、卵が水没して死ぬことは、絶対確実であった。

海寄り70mの所では、コンクリートの道路が完成してあり、車や自転車が通っていた。又、巣の向近で、工事のテテ所で行るわわわって、ダンプ、クイ打ち、パワーシヨベル、作業員の声すらはっきり聞えていた。頭上ではヒナと卵のし、ラジコンが飛んでいた。水たまりの所には、土手状の道があった。釣り、散歩、貝とり、磯あそびの人通り、ちよっと気を付ければ、親が卵を抱えていた所が、姿がまる見えなのだ。又、その土手状の道は景色がよく、車をとめて人が出てきたり、小便したり、人がよく立ち止まったのであった。コアジサシの調査をしていた時、子供達がこの水たまりで砂あそびや水あそびをせめて、ゴムボートも浮かべた。だが、いつ卵が見つかると、とらわてとおかしくなつたのである。人が通った時、近づいた時、何度と親はとび立つのであった。こういう危険いっぱい環境にあつて、毎日守つたのは個人の少数であり、食や組織は、何と為さなかつたのである。

「はえは立て、立てば歩めの親心」の句。早く飛んでく、早く飛んでく、早く産み所へ行く、早く産み所へ行く。



すっかり大きくなったセイタカシギのヒナたち(手前) 養鳥の現場に集ってきた「千歳の千歳を守る会」提供

養鳥

谷津湖のセイタカシギ

>5<

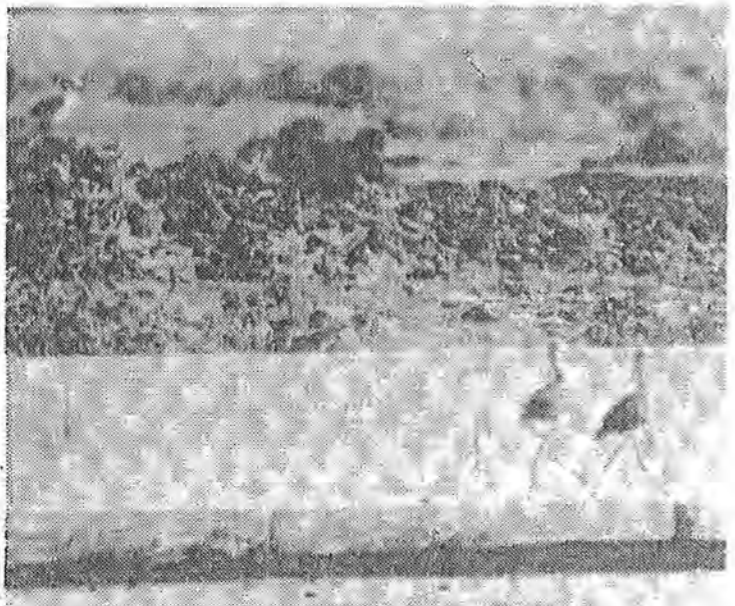
めざしてのこと、ちよとじかなかり離れられない。親たちな風にも吹き飛ばされそうだった。四羽のヒナが、成長は、予想外に早かった。冬化後一週間もたつた、体おびと回り大きくなった。へたおびも鋭くなり、首はほっそり、しまつてきた。襟茶色だった羽の色も、黒が濃くなった。動きも活発になり、行動範囲も広がってきた。食欲もおお盛で、眠んにかかった。園長さんはその間、車いす「数多い雁の雛を飼うが油断ないか、気が配りなかつた。たし、珍鳥にしようとした調査をした。ちよとじのころ、セイタカシギの監視を続ける千歳の千歳を守る会、日本野鳥の会、千歳の千歳を守る会、谷津湖の空千歳部の会、このうえないチャンスだ……。」



水たまりで水鏡(せい)こま虫などのエサをあさった。用心深くなり、人の気配を感じると、すばやく車むらの中に逃げ込むようになった。

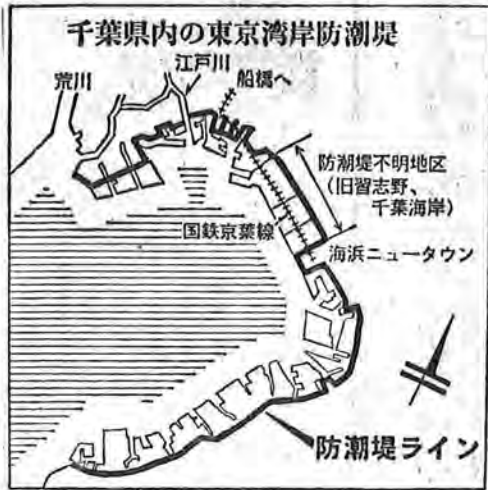
七月十二日早朝、千歳の千歳を守る会の園長松本さん(左)は偶然、セイタカシギ一家のおもしろい着飾りを見つけた。園長が、大標にもヒナを引寄せ連れて進出、標を立て地を突っ切るアスファルト道路を横断したのだ。ヒナたちは、さびたので、隣居のふちを

足輪の標識に抵抗



「ママ、のぼれないよ」——初めての進出に戸惑うヒナ鳥たち=「千歳の千歳を守る会」提供

埋め立て地は 台風は無防備



県内の東京湾沿いの埋め立て地は、海岸線に防潮堤がほとんどなく、伊勢湾台風クラスの高潮に襲われれば壊滅的な被害を受ける恐れがある。千葉県行政監察局はこのほど、ショッキングな調査結果をまとめた。県に警告するともに改善措置を求めた。県は高度経済成長期に企業を誘致するため急激な埋め立てをしたが、その結果、旧海岸線沿いに設けられていた防潮堤が内陸に取り残されてしまった。今年の台風期は峠を越したが、埋め立て地には誘致企業だけでなく、住宅団地、建設中の鉄道、美術館、警察を公立施設もあり、被害は大きい。

行政監察局が県に改善警告

防潮堤は内陸に

伊勢湾級くれば壊滅

県内の東京湾沿いの埋め立て地は、企業誘致に積極的に乗り出したのが三十六年、その用地として市原市の五井・姉崎地区の埋め立てに着手。ついで君津郡袖ヶ浦町の北袖ヶ浦地区、千葉市の中央区、浦安市の神合など、都県境から袖ヶ浦町まで約100キロの沖合をつぎつぎに埋め立てた。総面積は現在、千葉市の半分に相当する約一万余にも及んでいる。

防潮堤は海岸法で定められた海

岸保全施設の一つ。海岸の後背地に住宅や公共施設がある場合、海岸保全区域に指定し、海岸線沿いに防潮堤をつくる。埋め立て前の東京湾岸六〇キロは、ほとんどが海岸保全区域に指定され、昭和三十一年代までに長い防潮堤ラインが敷かれていた。

ところが、千葉行政監察局が今年一二月、専従職員四人で浦安市から袖ヶ浦町までの防潮堤の実態を調べたところ、さまざまの問題点が出てきた。

まず、海岸法では原則として海岸線沿いに防潮堤を設けられなければならないが、県は埋め立ての際、埋め立て地の後背地を守るため内陸部に残されている防潮堤の維持管理を暫定的に撤去し、防潮堤の現在の所管庁の見直しはかれ一と県に対策を迫っている。

防潮堤の見直しをほとんどしなかったため、現在海岸線沿いに防潮堤が設けられているのは千葉市の海浜ニュータウン(約四万世帯、十五万人)がある高浜地区などの一部だけで、残る大半の地区は現在の海岸線よりいずれも二三百メートルに取残され、約三千三百事業所がある京葉工業地帯の大部分、習志野市の袖ヶ浦団地(三千二百世帯、一万二千)秋津団地(二千世帯、七千)などの住宅地、建設中の国鉄京葉線、千葉中央地区にある千葉中央警察署、同郵便局、県立美術館などの公共施設も防潮堤より外側の埋め立て地に進んで来たが、高潮による水の浸透は遅れている。そうした意味で貴重な問題提起と思う。

防潮ライン見直す

池田建設・興土木部河川課課長補佐の話 海岸保全の国の予算と立って漸次前面に進んだため対応が遅れている。今後、県庁内の関係各課と話し合い、予算の都合のつくかぎり、防潮ラインの見直しをはかりたい。

防潮ライン見直す

池田建設・興土木部河川課課長補佐の話 海岸保全の国の予算と立って漸次前面に進んだため対応が遅れている。今後、県庁内の関係各課と話し合い、予算の都合のつくかぎり、防潮ラインの見直しをはかりたい。

防潮ライン見直す

池田建設・興土木部河川課課長補佐の話 海岸保全の国の予算と立って漸次前面に進んだため対応が遅れている。今後、県庁内の関係各課と話し合い、予算の都合のつくかぎり、防潮ラインの見直しをはかりたい。

この所、谷津干潟の水が、だいぶ澄んできました。すずしくなり、水の温度が下がり、赤潮が出なくなつた為である。水路ぎわや、津田沼高校がわの堤防の上から、水の中で魚の群が氷ぎまわるのが見える。

毎年、私産を悩ませていた釣りの人のゴミと、昨年よりはるかに少なくなつた。看板と、釣り人がたくさん来る所を中心に、10ヶ所作った。何よりも、ゴミや石やビンなどを投げ捨てていける子供を見つけた次第、片端しから大声で怒鳴って注意していらせいと、多少は

ふかんど

号71

1981.10.9

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五八番
電話0476-31-6668

文責 木村 田三郎

2000年刊

創刊 1980.6.3

あるかと知れない。勿論、すぐそばに子供の親がいて、気にしないので怒鳴るのである。別に、私産にはこれと違って何の権限もないし、注意するに値する、人間としての資格があるとはさうく思つてはいない。少なくとも、イカを見ている親や、鳥を見たら人が注意してくれば理想的であらう。が、私の知つていた限りでは、何の注意もないのが現状である。「少一でもきれいにしたい」それが目的である。まだ保護区指定になつていないので、行政の努力は為さねない。

どで騒がれているが、土木部河川課は「住宅地などがある地区では、埋め立て地の海岸線に近いところに防潮堤をつくる計画を進めている。埋め立て地の地盤高は最低でもA4・5層(荒川河口の平均潮位より四・五層高いという意味)はあり、相当の高潮が来ても大丈夫だ。また、工場用地は企業の「自衛」に任せてもいいところであり、企業を守るため防潮堤をつくる必要があるかどうかには議論があると思う」としている。

● 後日、私が大変助けられた人、藤富敦郎氏に出会ったのは、水を止めていたその時であった。

あまりにも多くの人が通る為、私はとうとうある日、水たまりのすぐ横を通る道に、バリケードを作り始めた。人や車に、うらいてどううらいてであった。土手道は高く、巢を作っている側は池なので人は通水ず車は勿論だ。道を境にして逆の方を通ってくれば、道のオケになっただけ、セイタカシギの側から見えず、又、そこを通る人かると、まず見つかるとはなにかがた。

波打ちぎわまで、100m程あった。そこから、丸太や竹をさかき、引きずって来た。疲れた体に炎天下、重労働だったが、パンソ一枚の姿で何とか作った。長さ30m位だ。ききめは、完全ではなかったが、かなりの効果はあって、私産は、セイタカシギと、とてよるこんだ。まあ、10人通ると

ころを、4、5↑になんばよと思っ作った。見張りをして、人々にあれこれと頼み、かつお願ひしている人向として、私の考えで、写真には、巢を見つけた時にとった卵とそれを抱いている親を撮影した以外、それ以後、唯の一度もシヤッターを切ったことはない。見た人、観察したいという自然保護関係者は、害を与えずに、無敵にいつと、守ろうとする人、他の何となく、セイタカシギの安全と生長の為に、具体的に行動する人が、余りにも、メチマクイ々に、どうしようもない程少なかったのである。

ヒナの生息している水溜まりの水を、境のよりに流している所があった。水溜まりの水はセイタカシギにとっては、絶対欠かないので、泥まみれになつて、ガツチリ止めてしまった。

その為、セイタカシギは大分助かったのである。

すっかり真っ黒になった羽を広げ、滑空練習を繰り返すセイタカシギの幼鳥 = 「千葉の干潟を守る会」提供



「キ、キーツ」。セイタカシギ親鳥が突然、けたたましい鳴き声をあげて飛び立った。上空に飛んできた自分より大きなコサギを目がけて、「一直線に向かってゆく。まさに、迎撃だ。舞いたコサギは、ほうほうのいで逃げてゆく。七月十七日、いつも通り監視に出かけた千葉の干潟を守る会の園松俊彦さん(左)も、偶然出会った光景だった。

ヒナは見送るほど大きくなったが、まだ飛べない。ヒナたちを守る親鳥たちは、空のギャンツといわれるウミネコにも立ち向かう。度々やってくる野犬にも、猛然と威嚇攻撃を加える。こうした、毎日の厳しい子育てのせいか、次第に親鳥が衰弱してゆくのがわかった。特に姉さん女房のメスのやつれ方がひどく、羽の痛みが目立った。

その親鳥たちの劣が、報われる日がやってきた。七月二十一日、とうとう、ヒナたちは羽を広げ、飛び上がる練習を始めた。しばらく、羽を広げ走りながら、三十四羽はようやく動作を繰り返す白が

親鳥たち

谷津干潟のセイタカシギ

>6<

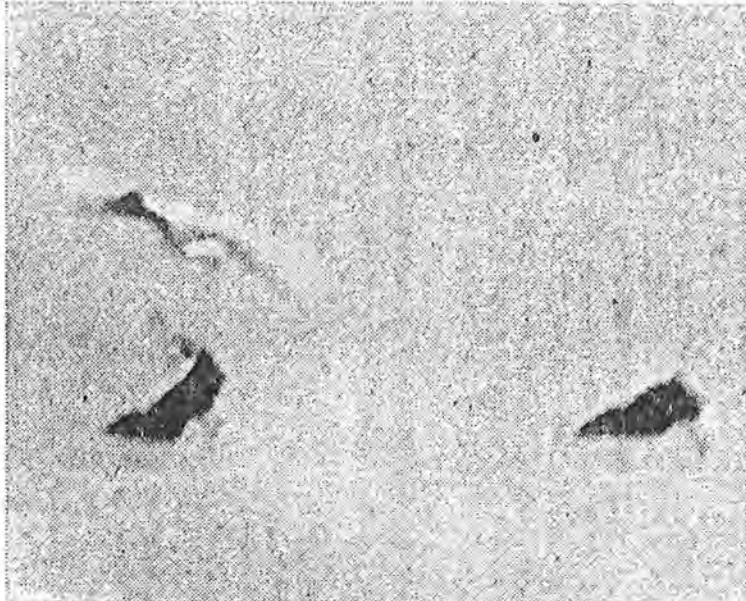


舞いた。羽の色、体つき親鳥と似てきて、もう幼鳥と呼んだ方がふさわしいほど成長していた。

そして、七月二十八日朝、ついには、四羽の幼鳥は、親鳥の後に続いて大空へ舞い上がった。初めどものように鳴っていた。

は、反対側の池の奥の小池にたが、だんだん大胆になってきて、埋め立て地の上空を何度も廻りするようになった。朝日の美しいと、白い羽、黒い翼、ヒナと後ろに伸ばした尾羽の長い間、青い空をバックに飛ぶ六羽の姿は、鮮やかなものだった。その様子を見守っていた園松さんは「飛んだ。もう大丈夫だ」と、こ

親子、鮮やかな乱舞



ヒナたちの上空に飛んで来たコサギをセイタカシギの両親は敢然と迎撃した = 「千葉の干潟を守る会」提供

◎ 観察舎が建てられた所は、県・企業庁・自然保護団体の三者会談によって、自然緑地としての土地利用が認められた所です。

△Yの頃、海草がそのすぐくあう、あうーが来ても、堤防の前にはつばいつまこーまり、波が消えたくて、しまうのでした。▽

ふかんど

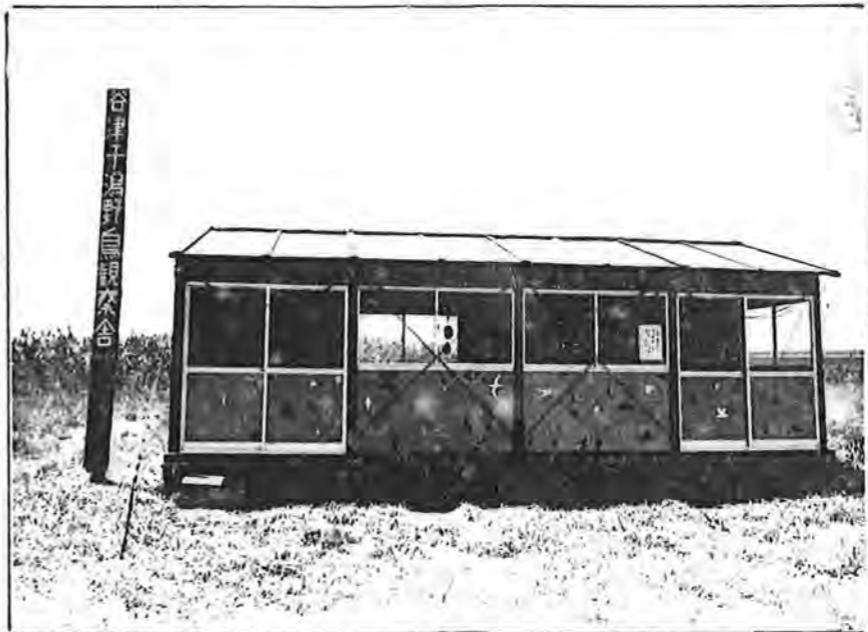
オ72号

1981.10.9

谷津干潟愛護研究会
 市川市本北方二丁目三五ノ六
 〒272 電話(四室)一六一六六六八
 文責 森田 田三郎

2000年読講

創刊 1980.6.3



(写真 は 自主撤去 する 前の 観察舎)

谷津干潟に

皆さんの野鳥観察舎を！

企業庁と話し合いを再開

「観察舎は一時、皆さんで自主撤去して下さい。そして白紙状態にした上で、観察舎の建設についての話し合いをしましょう」。以上の企業庁の希望を私たちは相談の結果、無条件で全て受け入れ、6月12日に私たちの手で建てた「谷津干潟野鳥観察舎」を去る8月16日、再び私たちは、自らの手で撤去しました。その向の2ヶ月、観察舎は急速に市民の向に知り、親子を持たれたようになりまりました。

観察舎の中には、図かん、双眼鏡、フロミナー、利用者名簿、伝言ノート、皆

皆さんの手紙、投書、電話、その他の希望を、ご一く、新聞社などに出して下さり。

んなの声のノート、谷津干潟の生物標本、谷津干潟にゆ係するすべての自然保護団体の会報、いろいろな鳥の巣や卵の見本と展示、渡り鳥のカレンダーや各種パンフレット、虫をとる網や魚をとる網、けがをした時の急救箱、机、ソファ、イス、道具箱、ヒモヤロープ、ソーロの為のゴミ袋ヤクマキ、手袋、長グツ、ペンキ、一輪車、カサ、大きなビニール、水筒、コーヒージャホ茶の器具、大工道具、ソーロい

谷津干潟野鳥観察舎
 自主撤去後
 初の話し合い
 保護団体と企業庁
 保存運動の拠点として、野鳥愛好家たちの夢を、習志野市の「谷津干潟」に建てられた野鳥観察舎が、県企業庁から「不法占拠にあたる」と警告を受け、保護団体によって自主撤去されてから、初めての両者の話し合いが五日、船橋市の同庁京葉建設事務所であった。同日、出席したのは保護団体側が谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長、千葉の干潟を守る会(大浜清代表)らの代表、企業庁側は柳田昌謙同事務所長ら。森田会長らは企業庁側が望んでいる白紙の状態に戻したのだから、観察舎を設置するため企業庁所有地の暫定使用を認めしてほしい」と、訴えたいに対し、企業庁側は「同地域が国設鳥獣保護区に指定されるのが内定した段階でなければ無理だと答えたのとこまだった。

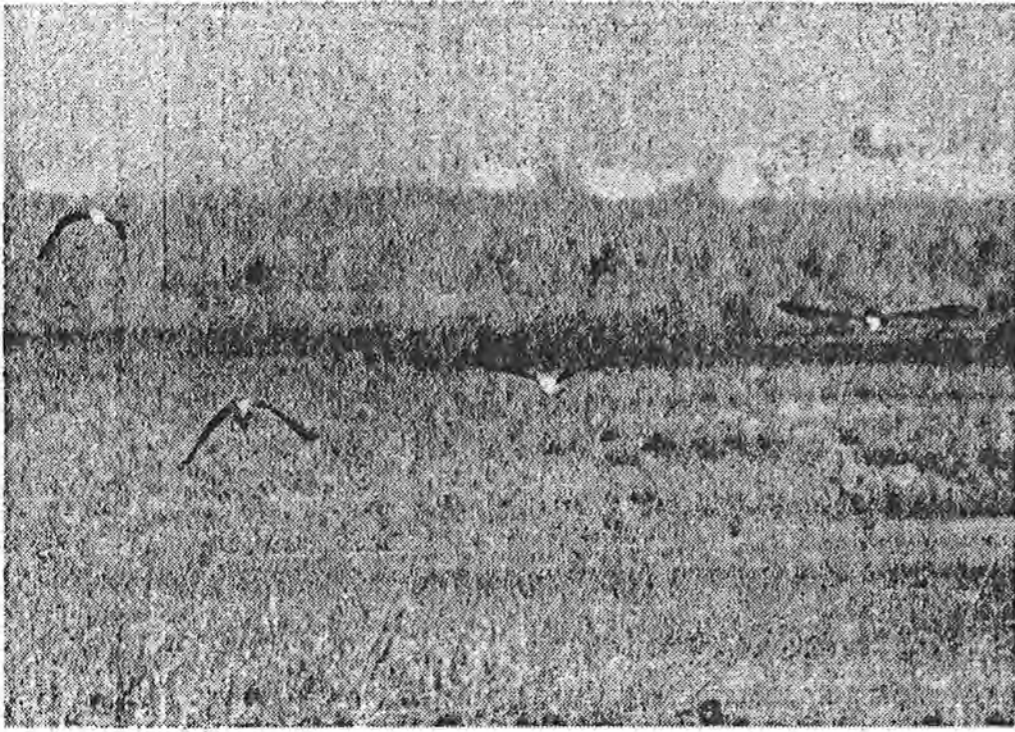
よごれたキヤ足を洗う為のポリタンク、観察用の案内板、いろいろな文具品など、その他、谷津干潟に来た人が何をすると困らないうよう、利用できそうなものをたくさん用意してありました。そして、今まで長い向、とくに女性からの強い希望であった、トイレを作っていました。しかし、今は何にもありません。でも、またすぐに建てられるように、みんなきちんと、ある方の特別の好意によってしまっていました。私たちは谷津干潟を愛しております。長い向、谷津干潟を守る為、きんにする為に、更にいろいろなことをして参りました。ただ行政に任せ、きりでなく、私たちは、自分たちで出来ることは自分たちでやろう、市民が自らの手で守り、きんにしてこのように思っています。一日も早く観察舎が再建される日を願ってやみません。

たとえプレハウでも、行政が作ってくれれば一番いいのですが・・・

(朝日新聞) 10月6日

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会

4羽の幼鳥は、別れを惜しむように生まれ故郷の埋め立て地の上を飛んだ



ホウフラをはいめとする他の虫や、水草が生い茂る埋め立て地の水溜まり。そこで私は顔や体を洗い、歯をみがき、パンツ・シヤツ・クツ下などを洗たくするとソッパ夏の日だった。衣類は、草の土入小屋の上にかけて干して、中で私は、見張りをしていた。ふだんはパンツ一枚でウロウロまっばだかになつて、行水したり、石けんで体をゴシゴシあうった。海の中へと、時にはフルチンでとび込んだ。何と暑いのだ。どこぞの会だとか、組織とか、〇〇会の会員なんてことは、全く念頭にすらなかつた。又、その為では全くなし。

水筒の水では足りなくて、よく埋め立て地の雨水を飲んでみた。汚いなんて言つていらふなかつたし、けっこうつまりのだから腹いっぱい飲んだ。何とこんなかつた。その頃の私の顔はひどかつたと思う。セ

イタカシギの親子が生息していた場所の、見まわりとした。日課だった。手にスコップやカメラをぶら下げて、生息地の周囲とぐるりと一周りするのだ。パンツ姿です。ヤ、出来ただけ人や車がセイタカシギのいる所に近づくにくくする為、道にバリケードを作ったり、捨ててあるゴミを集めて来て、山と積んでおいた。約、一まわり50分かかった。すべての水の出口を止めてしまった。野丈の来たあとはなにか、水止めの土手はくずれてなにか、バリケードはこわされてなにかなぞ。つまり、何か異状はなにか、という調子で。

そんな日々、埼玉から来た藤田敦郎氏と知り合った。この人は私の「足を思つて、いれ以後、自宅のすぐそばまで車で送つてくれたのであった。後で知ったのだがこの人、すでにセイタカシギの事、コアジサシの事や私の事、又、東京湾造成以前から、全つて知つていたのだ。

53.10.26 (朝日新聞)

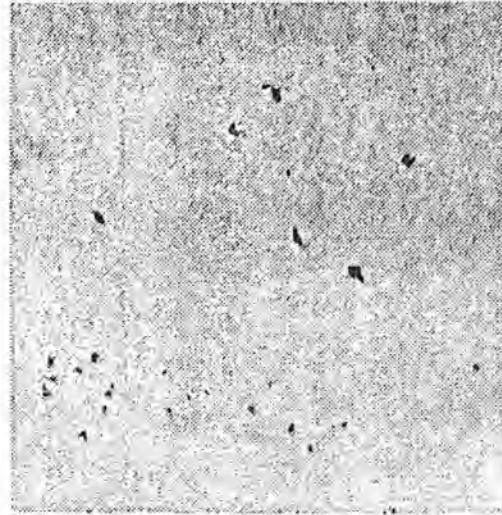
美空ひばり

谷津干潟のセイタカシギ

この楽園いつまで

大空を舞う自由を知った幼鳥たちは、次第に飛行距離を延ばして行った。八月初めには、生まれ育った谷津干潟近くの埋め立て地を離れて、一家で千葉市麻栗で遊出した。幼鳥は、激目には頭頸と見分けがつかないほどに成長した。

八月六日、セイタカシギ一家の姿が突然、埋め立て地から消えた。千歳の千鶴を名乗る森田三郎さんと、岡松俊英さん(きんぎょ)は、一帯を捜し回ったが行



九月十五日、ビッグニュースが飛び込んだ。この日行われた、日本野鳥の会の会合で、谷津干潟の鳥の楽園が、保護される保証はない。東京湾造成の中心地だけに開発がどんどん進められているから、これからの行動は、一家が移住を決定し、谷津地を捨てたことを痛感していた。岡松さんは「いや、千歳一帯を保護区指定して、永久保存するよう、環境庁、興、習志野市に働きかけて来た。こんな多量の高層建築をつぶしてしまふのは、正しい事ではなかろうか」と、会合では意見を述べた。

九月十五日、ビッグニュースが飛び込んだ。この日行われた、日本野鳥の会の会合で、谷津干潟の鳥の楽園が、保護される保証はない。東京湾造成の中心地だけに開発がどんどん進められているから、これからの行動は、一家が移住を決定し、谷津地を捨てたことを痛感していた。岡松さんは「いや、千歳一帯を保護区指定して、永久保存するよう、環境庁、興、習志野市に働きかけて来た。こんな多量の高層建築をつぶしてしまふのは、正しい事ではなかろうか」と、会合では意見を述べた。

九月十五日、ビッグニュースが飛び込んだ。この日行われた、日本野鳥の会の会合で、谷津干潟の鳥の楽園が、保護される保証はない。東京湾造成の中心地だけに開発がどんどん進められているから、これからの行動は、一家が移住を決定し、谷津地を捨てたことを痛感していた。岡松さんは「いや、千歳一帯を保護区指定して、永久保存するよう、環境庁、興、習志野市に働きかけて来た。こんな多量の高層建築をつぶしてしまふのは、正しい事ではなかろうか」と、会合では意見を述べた。

(おわり)

谷津干潟野鳥観察舎の建設について、私産は皆さんの声や意見をお待ちしております。

ふかんど

第73号

1981.10.10

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話 0476-31-1666
 文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

へなせあの頃、昭和27年頃、干潟の沖から、オシロイ・ドロボー・ヒナキなどガ次々と飛んでき

谷津干潟に

皆さんの野鳥観察舎を

再建—ましよう

去る5年5月に、県・企業庁は、三者会談（千葉県・企業庁・自然保護団体）において次の約束をしました。

- 一、谷津干潟の環境保全には、企業庁として積極的に協力する。
- 一、谷津干潟の「鳥獣保護区指定」には、企業庁と積極的に協力する。
- 一、現在ある草地（テーブルとベンチのあ



る所約3.1haは、「自然環境を目的とした土地利用」とし、そのうちの6000㎡は、将来、谷津干潟が保護区指定になった時、管理者の県、あるいは国（環境庁）に譲渡する。

— 以上。

右の如きの、「三者協定」を踏まえ、かつ基盤としての谷津干潟野鳥観察舎です。

そして、谷津干潟野鳥観察舎の「性格」あるいは、「位置付け」は次の如しです。

- 一、国は、区域指定後、本格的な観察舎を建設する計画です。故に、それまでの「一時的なつなぎ」とする。
- 二、観察舎は、移動・分解・組立てが可能なプレハブとする。
- 三、同観察舎において私産は、「居住権」な

らびに、「所有権」を主張するものではないこと。

四、同観察舎は、区域指定後、干潟と自然緑地を管理するであろう国が県に「よくリイ」のまま寄贈する。

— 以上。

なお、右のことは、昨年すでに企業庁にと十分説明済みであります。又、自然保護団体・一般市民・募金賛同者・すべての報道関係者・その他などに、会報や主旨説明書等に明確にお知らせしてあります。

私産は、干潟の環境美化・利用者のために、観察舎は絶対必要だと思おう。

伊真提供 東康生氏（毎日新聞）54年5月

セイタカシギ物語

最初は、藤留敦郎氏の電話であった。その日は、54年5月20、夜8時頃であった。その時私はまだ、帰宅していなかつた。しかし、家族の言伝では「何か大事で、危を要するものだから」、帰宅したらすぐ電話して欲しいとのことだった。「是非、森田さんに伝えたい、頼みたい事がある・・・」という氏の言葉。私はすぐ氏に電話した。氏は言った、「森田さん、来たよ。又来てるよ、セイタカシギ、千葉港のあそこ、同じ所、同じセイタカシギが。オスとメス、よく見たけれど、全く昨年と同じのが、向産いのり。フクだよ、又フクだよ」と。

私産が苦しい中にも、時間から時間、日から日へと見張りをし続けた。そこへ時々、2〜3羽の別のセイタカシギが来たのだ。藤留氏は「おかいり、変わった、方向は幕張だ、もしかしたらあ、あさんいやなつかあ森田さん」などと書いた。幕張の地理環境は、私は誰よりも知っていた。ある日、彼らの飛んでゆくのをプロミナードで、夏霞の中に消え去るまで追った。藤留氏とNHK・TVロータリー班に見張りを頼み、帰ってきた時間を約束して、私は出発した。工事現場の中に菓はあった。工事人の話では誰も見張りをしなからいとのこと。私は彼らに保護を頼み、帰って仲間にも知らせた。

2組産卵し3羽のヒナ

調査に成功 国設保護区指定を陳情

珍鳥が帰ってきた――千葉県市原市の「谷津干潟」近くの埋め立て地で、五月末から六月にかけてセイタカシギの夫婦が昨年と同じように産卵、ヒナをかえした。「千葉の干潟を守る会」(大塚龍代)と千葉県自然保護部(代表・三浦謙一)と千葉県自然保護委員会の委員が見つけ、調査に成功した。昨年はひとつの産卵のヒナを保護したが、今年は何もかえらなかったが、今年は何もかえなかった。ヒナをかえした。ヒナをかえした。ヒナをかえした。

長 関係した。セイタカシギは、海鳥で、地中で産卵し、メスがヒナを守りながら育てる。千葉県自然保護部によると、この埋め立て地には、セイタカシギの産卵場が複数あり、調査の結果、保護区指定を国に陳情することになった。

現在「埋め立て地」は、千葉県自然保護部と「千葉の干潟を守る会」が連携して、調査を進めている。調査の結果、保護区指定を国に陳情することになった。

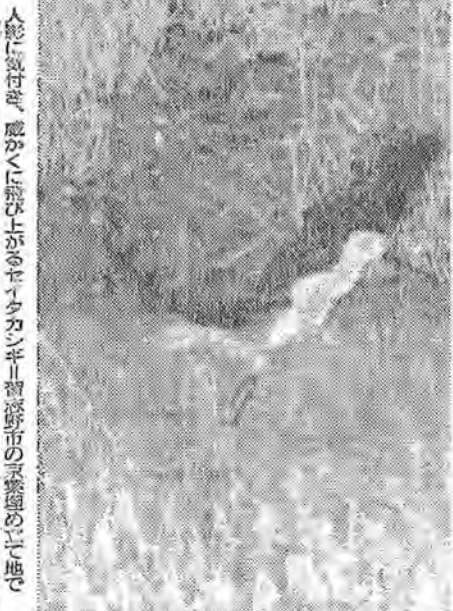
セイタカシギ

今年も8羽飛来

――谷津干潟近くの埋め立て地――



かえったばかりのヒナ（O印）を見守るセイタカシギの夫婦―千葉市市原市の埋め立て地で増殖している産卵3丁目自然保護部さん等



細長いピンク色の足。その一本足で立つ珍しいセイタカシギの親 ―市原市の埋め立て地で



人に気付かぬ間に産卵したと推定されるセイタカシギの産卵場(埋め立て地)

現在「埋め立て地」は、千葉県自然保護部と「千葉の干潟を守る会」が連携して、調査を進めている。調査の結果、保護区指定を国に陳情することになった。

大海の中に、スミレみたいなもの 置いておいて、次の日に引き上げると、魚やカニがとれた。✓

ふかんど

オ74号

1981.10.10

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二と三五八
 電話 0476-116668
 文責 森田三郎

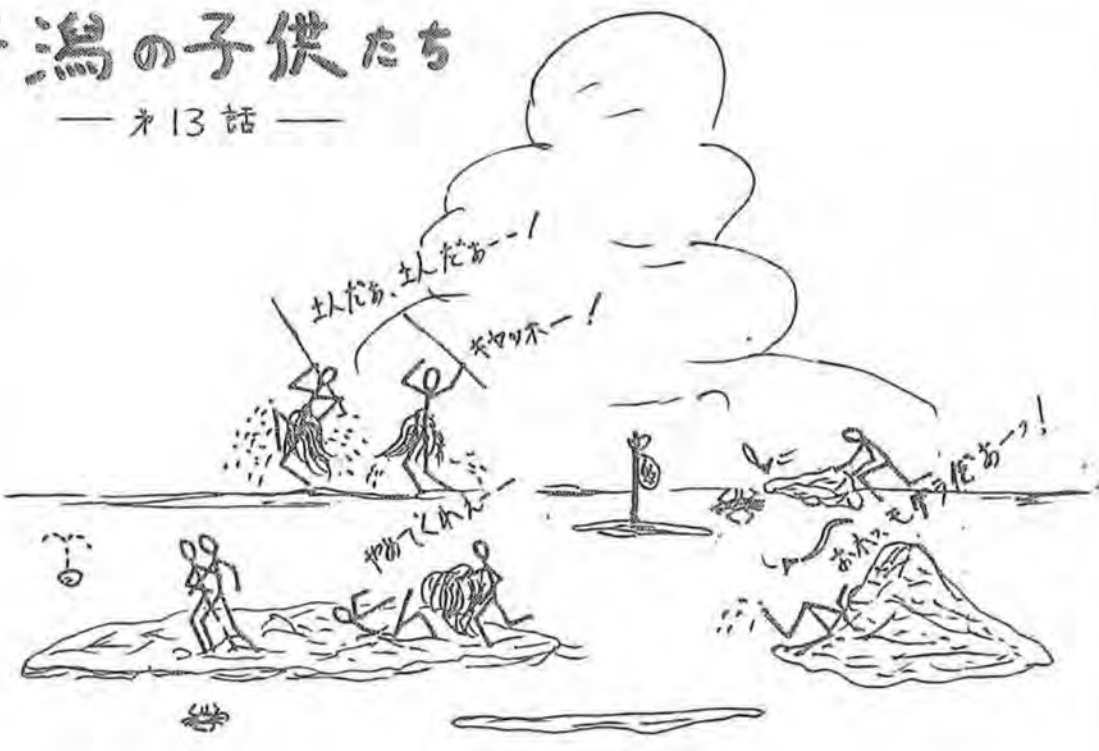
講読年2000

創刊
1980.6.3

谷津干潟野鳥観察舎を再建させよう。

干潟の子供たち

— オ13話 —



海藻を積んですもうやレスリングをしたこと

そのころ、干潟から腰ぐらいの潮の中へ入って行くと、じきに歩けなくなってしまうほど、藻が茂っている所があった。そこを深場と言っているた。

海藻がジャングルのようにびっしりと生い茂っており、体を動かすのが大変だった。また浮き藻も積もるようになってぎっしりたまっていた。そこに入ると全身が海藻に包まれてしまい、泳げないのはもちろん、歩くのにさえ、体を思い切って前かがみにしてぐねらしくねらし、手と足に力を入れ、かき分けながら干潟へと上って来たものだった。その時、顔と体が隠れるくらいに海藻を、
 “ヨイショヨイショ”と抱えて来て、干潟の上にドサッとほうり出すと、その中からウナギ、カレイ、トビウオ、ハゼ、ガニ、キヨリ、キスなどが、目にしみるような白い銀りんを踊らせ、ビタビタとものすごく勢いよくはね回り、水滴を辺りに飛ばせながら飛び出した。
 するとほくたちは、喜び勇み、小

会員で、秋津に住んでいらした人か言うのには、「この前、うちの子供が言ってたけど、なんかあ大人のオレ達の知りぬえとこに、子供達だけしか知んぬえ、かくれ家を作ってたんだってよあ。アミ原ん中でああ、皆んなあそこ行っちゃあ何んかやって遊んでんだってよあ。どこだか教えぬえしり、何やってんだらあ？」という事。



現在そこは、アミ原のようになっっている。

何でも作っちゃう子供たち

オーストラリアの公立小学校にわたが子を入れた。日本人の養育は、一週間もすると、子供の力の中が、教科書やノートではなく、お人形や積み木やソフトボールで占められているのにびっくりするに違いない。小学生のうちには、子供は進歩的の、本入を機も切り切っている。オーストラリア人の友達をの所へ遊びに行くと、子供達をの所へ来た、小学生の兄弟や姉やが家中か、集めてきたらしい物達を、なにやら作



オーストラリア

オーストラリアの公立小学校にわたが子を入れた。日本人の養育は、一週間もすると、子供の力の中が、教科書やノートではなく、お人形や積み木やソフトボールで占められているのにびっくりするに違いない。小学生のうちには、子供は進歩的の、本入を機も切り切っている。オーストラリア人の友達をの所へ来た、小学生の兄弟や姉やが家中か、集めてきたらしい物達を、なにやら作

線は当時私がつけたもの。

小林大光氏との出会い

この人と知ったのは、才一回目の繁殖の時、53年7月だった。どうヒナとだりぶたきくろり、昼はヨシ野の中にひイサ、夕方の同時刻には、4羽のヒナが両親に先導さへ、決ったコースを決った所、ゆぐらに帰るといふことをくり返していった時である。

その日は言葉多く語らなかつたが、人間の的に一脈通じるとのがあつた。京葉ホンダという会社の社長さんだった。埋め立て地には造灰時より来てあり、セイタカシギのことは卵を抱えていた時に知つたのであつた。

か、場所は知らせてどうええ、行つてはいいけないと干潟を守つた会や野鳥の会千葉支部から言われつたとのこと。

ギ小を聞いた時、私は、「ああ惜しい事

をした。残念な事をした、何という勿体ない事と、干潟を守つた会や千葉支部の人、ギ小とごく一部の人は、たのカー、リという根子とやせせなり、懐りに似た思ひであつた。相識として、殆んど現地においてこの鳥を守りとせず、ギ、記録を真す、余りに不完全なとりカー、リなりのことを、私は日々十分知つていたのである。当人達と、十分ギ小を知つていたのである。氏は、16mmで撮影してつた。自分達は仲間内で好きな時に見て来つてゐるから、とし、他の人に教へないう、実をとり人にとつて保護さへた状態では、不健全だらけの記録しかと小なりという、あつた責任感があつたのなら、何故、知らさん方々の人々の為により、良い記録を作ら、強すべき手段を講じなかつたのか。その無数の野鳥愛好家と守る人に対して「義務」は感じなかつたのだろうか。

千葉ニュース

ちばニュース



東京湾岸に11羽確認

「日本野鳥の会」は、セイタカシギの三羽の赤ちゃんが、昨年に見つた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。一方、昨年見つけた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。一方、昨年見つけた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。

ヒナ3羽スクスク

谷津では親鳥が4個抱卵

セイタカシギは、繁殖地をめぐり、今年も確認された。一方、昨年見つけた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。一方、昨年見つけた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。

五月二十日、谷津の親鳥が、4個の卵を抱いていた。一方、昨年見つけた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。一方、昨年見つけた東京湾岸の千葉市津波の海浜に、今年も確認された。



戻ってきた珍鳥

八風車が水面にうつす沼の中、水の甲の、土のくぼ地に手を突くと、カメラが小まました。V

ふかんど

第75号

1981.10.10

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三番六
電話 0476-66666
文責 森田三郎

講読年2000

創刊
1980.6.3

神戸の友へ 魚の泪を見たことがありますか

ノミの隠れ処への批判島人工

ア ピ ト 一 赤

(毎日新聞9月)

神戸の友へ 魚の泪(なみだ)を見たことがありますか 鳥のさびけを聞いたことがありませんか 山を削り 海を埋め 雨をさきり 雲を風を追い出し 春の息吹きを夏の匂いを 秋の調べを 冬の静けさを味わわずに 大地の呼吸を止めて おかれるもの作られたものは何ですか 今必要なものは 未来への目にはなく 自分の足下を見つめる目 引き返すことができないなら 彼方の塵埃を眺めつつ 一緒にみませんか

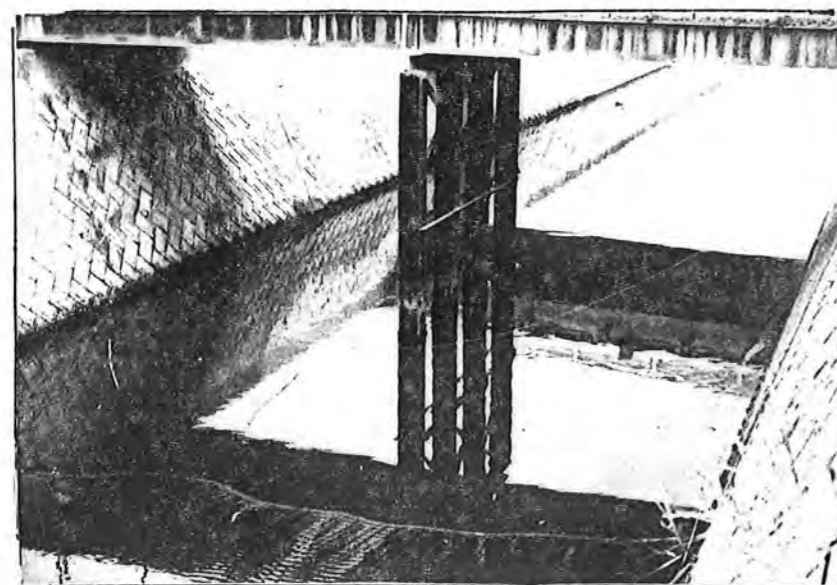
作 山本茂樹 京都

まねされては困る

大規模な自然破壊

文化にもほど遠い

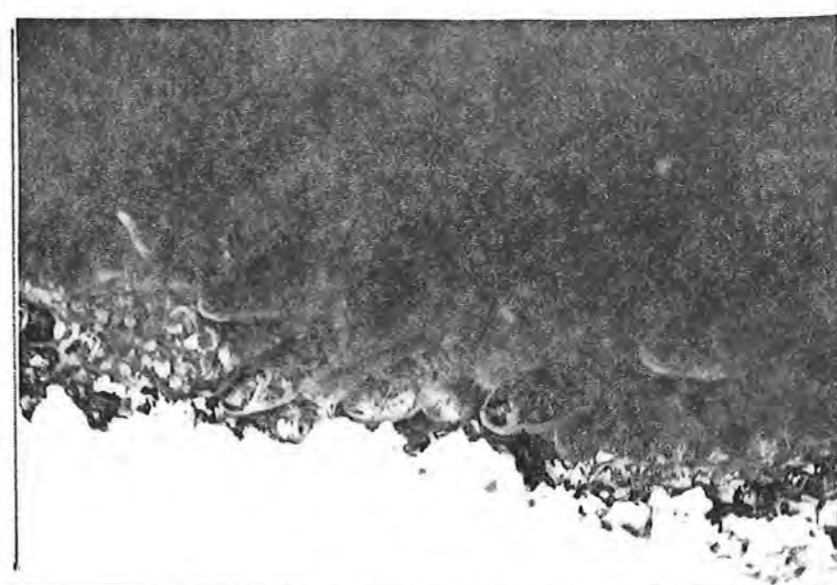
青潮の時、魚たちは苦しみながら、写真のようにして水路を通過して干潟へと……。



網を張って、浮いている魚をつかまえるわけ。



水路の、カキが付着している所。水面に顔を出している。この姿、いたる所で見られた。



お振込は千葉銀行012-54253 谷津干潟愛護研究会

セイタカシギ物語

車をいただく

東京ホシタの社長、小林大光さんから。
 「森田さん、あんたの体でよくとまあ、大丈夫ですかあ、こんなことしてえ、大変だあ、スゲエーナア、タマゲタネエー。」「oooooooooooo」。」「ぐんぐんやあオレイ、車一台あなたにリヤるよあ、丁度オレんとこに、非売品のがあつてさあ、ちよと、お色直し、すんばあ、乗れんからさあ



田中光常動物写真シリーズ②
 セイタカシギ

昔、東京から千葉方面へ行く途中、幕張附近にさしかかると、東京湾の海が目の前に広がって来て、ブーンと磯の香が鼻をついたものである。ところが今ではすっかり埋立てられ、海の方角がどちらかさえない程になってしまった。それでも渡り鳥達は昔をしのいで、雨水の溜った未建設の工場予定地等の空地に巣をつくりにやってくる。

コアシサシ、コチドリ、シロチドリ、等、又珍らしくセイタカシギも昨年、一昨年と一三組が巣をつくりにやってきました。これらヒナが無事に巣立つまではと、仕事の合間をぬって毎日のように暖かく見守ってやっていた青年達「谷津干潟愛護研究会」の森田さん等の御蔭で私も卵を抱えている所とか、ヒナが卵からかえる所とか、元気に巣立つて行く姿等を取材させて頂く事が出来た。

セイタカシギは、他の水鳥達に比べてずばぬけて足が長い。ちよと長過ぎて可愛そうなただ。身体的全長は三十八センチ位だが、足の長さは二十二センチもあり、飛ぶ時は、尾からはみ出してしまう。日本では九州、北海道でも姿を見たが、千葉県での営巣は、五十二年、五十四年に発見され、大変珍しい記録となった。営巣地に近づくと、親鳥はさつと飛び立ち、キッキューと鋭い鳴声をはりあげて旋回しながら敵を威嚇する。雌雄交棒で約二十五、六日間抱卵し、ヒナは約一ヶ月で独立するようになる。昨年は二ヶ所で二ヶと四ヶ卵を産んだのだが、四ヶの方は無精卵だったらしく、遂にかえらず、がっかりさせられた。

(写真・文 田中光常)

取り逃がしてしまいが、なあかつ、自分産だけにしまつておく。という事実はこれだけではなかつたのだが、他の無数の自然愛好家に対して、私は「罪悪」だとすら思ってしまった。

話
 ぼろろに読み終けた。
 十月二十五日の六回目「空へ」を読み終った時は、無事の成長を喜び、親子大羽のセイタカシギが天かける姿をのび、思わす「谷津干潟のセイタカシギ」は、お読みになった方も多か「口ずさんだ」たと思う。
 翌二十六日の「別れ」では、鳥類の知識は薄無だといいてい、そこはかたわくわくびしきをおぼえ私だが、一回目の「珍鳥飛来」を、飛んで行く先は南の温暖地方読み、「巣立」の飛来を期待する「セイタカシギ」に思わず万歳、ととも、それを「まれのつがな」に愛する谷津の干潟に愛するようになったら、そちらに愛する「セイタカシギ」の「別れ」まで、心を通わす、あちこちも思いを、保護に尽くされた献身的なご行為は、感謝を申し上げる。
 翌朝からは、これまで「干年近くも真つ先に読んだ「天宮人語」」松戸市南花鳥三ノ五ノ三を後回しにし、「巣立」をむき
 興 宗夫

くんのoooooooooooo」。」「そんじやゆえ、しばらく時間くださいよあ、連絡したら取りに来てくださりよあ」。」「oooooooooooo」。

初対面以来、氏の卒

直人人間性と埋め立て地の渡り鳥に対する意気に感した私は、氏に任せたく思い、かつ、全面的に力の及ぶ限り協力することを決意したのであった。
 ぐんぐんしてと、何故、どうしてこの様な人を、とつと早く知らせてくねなかつたのか、これ程多くの貴重なシンを、余りに多く取り逃がしてしまいが、なあかつ、自分産だけにしまつておく。という事実はこれだけではなかつたのだが、他の無数の自然愛好家に対して、私は「罪悪」だとすら思ってしまった。

氏とは初対面の次の朝、5時、東の空が白々と明るくなった頃会った。氏は埋め立て地のはるか遠くから、朝霞の中を車で突走って来た。「ヨオシ、お早よう、森田さん、どうしてこんなに早く来り小たんだったの？、まさか家から歩いて来たんじやないの？、電車だつて走つてゆえしさあ？」「う、ううん」。」「じゃあどうしたんだい？」「オレさあ、寝たんだよあ」。」「ええ、い？」「ここにこう」。私は指さした。「コンクリートの岸壁いやない？、ええ、ここにウツク？」「うん、うん、うん」。波が石に当って砕け、ガブン／＼と音をたて、しびきかたぶ。汗かたの潮風が耳にうたつた。「ここだったら蚊と吹っ飛ばさ小ぢやうし、寝てと、小林さんにゆかると思つてさあ」。」「

UIBIX-WORLD NO 27 1980.6.2 写真は大きすぎ省略。

この子供達の為に自然緑地を、そして今、観察舎再建へ



52年9月。退院したその月のことである。秋晴の一日を、谷津干潟と周辺の草原で行動と共に、話しを、食事をした。

しかし、私はとはや、入院前と退院後では違っていた。大浜・石川氏を中心とする千葉の干潟を守る会や千葉支部の「一会員」という考えやワクの中でのいようとは思っていたがなかった。病院のベッドに身を横たえていた時、

干潟や渡り鳥のこと、そして、今までの自分や他の人々のこともなびと、ゆっくりと考え、見つめ直して来たのであった。両会が、干潟や主物より、そして、運動や、創造力や創意工夫より、努力の芽より、イデオロギイめいたもの、ある固定的な意図をその先入観とし、それ以外のもの、意向にそわなりのものには、暗く、冷たく、除外してしまふのだ。

ふかんど

第76号

1981.10.11

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北方二丁目三五ノ六
 電話 0476-31-1666
 文責 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

水はよぼよぼと「更家心」した。水がかわくと塩が残った。それをなめて、改めて海

お振込は千葉銀行012-54253
 谷津干潟愛護研究会

NHK・TVロータリー班に
感謝します

過去のコアジサシのコロニー、あるいは、
昨年のセイタカシギなどの経験より、とはヤ
野鳥の会千支支部や千鳥を守る会を中心に
たのでは、とうてい守り切れるものではな
いことを知らされた。

藤岡氏より連絡があった数日後、機会を見
はらかって、菓の卵を確認した。勿論、その
ことは別の一番に氏に告げた。そして、地元
の団体に連絡した。出来る限り、協力して
もらうつもりだ。が、三日、一週間たつ
と何の連絡もなかった。その間、セイタカ
シギは、昨年よりとはるかに危険な環境の中
で、今日明日にでも卵をとろとろと不思議で
ない所で、毎日とすごうついていたのだ。すでに

有志で守った私産は、こちから出かけて行
って、「いかかーたらよーでしようか？」など
と言つて、何のたしにもなつたりというの
が全体的な考えだった。以後、連絡は一度有
ったのみで、現地のセイタカシギを守ること
については、一切協力を得られなかった。

かゆいより私は、数人の、信頼できる人に
来てもらうように決めた。何故なら、
「誰でも自由に使える為に」という倉庫のど
とにとろろした記録が、千鳥を守る会の大塚氏
を中心として、早、所有化、と所有化されて
了る事を身をもって知りたかったからだ。
そういうことはさておき、何と言つても、
現地に來なければ、守れない。のだ。私か
知つていただけで、四度、一般の人に菓を
見つけられしまつたりした状態なのだ。会員
をそろそろ引き連れて見にくるのよつが、
「オレ産の所に作ったのだから、オレ産のそ
のしつりう考えたら、
自分のそのとて守ら
たりよつではなつか
何故守らなりのかわ
NHK・TVロータ
リー班は、地元自然保
護団体の防衛とも明ら
かに言えろ行為をさ
つ、彼らを全く問題
にしなれ程、あの暑
夏の埋め立て地で、見
守つてくたのたので
ある。
以下次号へ



優雅に 育つてに

セイタカシギ卵三つふ化

千葉の埋め立て地で

【千葉】優雅なスタイルで知ら
れる珍鳥セイタカシギが、千葉県
市本北方二の三五の六、護国
の淡水池二が所で見つかった。
うち一が所では三羽がふ化した。
これは、習性どおりそれぞれ四
つの卵があり、森田さんらが観察
を続けていたところ、習性野鳥の
方は、ふ化しなかったが、雛の
巣では三つの卵が、六月十七日か
ら十九日にかけてふ化し、昨
三羽の雛を産んだ。この雛は、
カヌラン松永三(みちぞう)
さんが、ビナの撮影に成功した。
同高埋め立て地では、ビナも含
めてセイタカシギは、合わせて十
一羽が確認されている。
同支部では、セイタカシギが十
羽以上も、巣で、生息している
のが確認されたのは、全国でも初
めてのことだ。

六月十九日、三頭全部ふ化
した。ビナをたぐり、セイタカシギのメ
ス千葉県自然保護会(会)

機械
建設
イマギレ

人今の谷津ハイソの所に、大小の泥がたくあろう、浮き草の上で、ワたる所でカエルがすわっていた。

ふかんど

オ77号

1981.10.11

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

会費年2000

創刊 1980.6.3

谷津干潟通信箱 ～みんなの声～

Thu, Oct 8, 81

午前中の授業が休憩講になったので、干潮が45にあま
せて干潟に来た。私達のサークルは、セミとハルツグ、ここを
観察に来ることがあるのだけれど、私自身はそれでは何の
感たりないの、一人でよく来ます。ほんとは、サの(特定の)
と来たのかもしれませんが……

埋立ても、ごんごん進行し、昨年と比べ、鳥の、いる場所が大
きく変わって来たのに驚いてはいます。それと、鳥達は、しかり
と、干潟を訪れ、いる所から、この干潟が、この周囲ア
リかに重要な場所かかわります。ゴミが少なくな
ったのは、森田さんで始めてです。谷津干潟を、保護
する人々の努力の結果でありましょう。本当に、御苦労さ
まで。私も、当然ながらゴミを出さない様にしますし、
ゴミの、つ、2つ、持ち帰ります。ありがとうございます。

Tomtom

気になります
谷津遊園
約600m程干潟に
接しているので、
私達とその行方を
注目している。
これからと関係記
事をのせます。



京成谷津遊園 京成電鉄が大正14年、当時、塩田であった一帯を買収、京成遊園地会社を設立、「谷津海岸遊園」として開設した。日本勧業銀行の本館をそっくり買い受け、谷津遊園楽天府と名付けて名物とした。楽天府はその後、千葉市に譲渡され、現在は千葉トヨタの所有となつて千葉市内

の国道14号沿いに現存している。昭和に入ってからのは阪東妻三郎の独立スタジオを設置したほか、大海水プールが出来て海水浴のできる海浜レジャーランドとして成長した。遊園地内の球場が、読売巨人軍の合宿拠地となり、昭和9年に来日したペーブ・ルースが練習した。その後、京成電鉄直営となり、太平洋戦争に突入するまで関東一円から海水浴や潮干狩り客などを集めた。戦後は22年に再開園し、象、トラ、ライオン

※京成再建で閉園へ※

ところが、首都圏唯一の谷津の菊人形も今年かぎりでは消え去る運命になりそうなのだ。経営不振に陥っている京成電鉄が、再建のため、優良資産である谷津遊園を日本住宅公団へ売却する方針を決めているからだ。いまのところ、来年十二月末で閉園の見通し。同遊園だけをかきつめてみた場合、黒字経営だけに、「なぜつぶしてしまうのか」と、地元を中心に強い反発が起きている。

はじめてきたのですが、とてもきれい、とても
見えて、とてもおもしろ
かった。
この干潟は、紀伊に宇、てほい。
東京から来た市川、浩

今日、10月11日(日)、近くに住む市民が、イホとかな
りの数が干潟に来りました。
鳥を見た人だけを見て、野鳥の会の人よりとずっ
と多いのです。そして、通信箱の中をのぞいたり、私
達の作った看板を、けっこうよく読んでくれたのです。
サンダルや自転車、あるいはいかにと散歩のふいで来
る。干潟を見ながら、テーブル・ベンチでごはんを食
べて行く人は、毎週あるのはふだんの日でも見かけま
す。土人小屋やベンチで、干潟をバックにして写真と
とって行く人も少なくありません。
以上、こう書いてくると、何でをなりのようですが、
実は、3、4年前とはいく分違ってきているのです。
たとえば、看板ひとつをとって見ても、その頃には読
む人なんかもずらりの位で、よくこわさかっりました。

ところが、首都圏唯一の谷津の菊人形も今年かぎりでは消え去る運命になりそうなのだ。経営不振に陥っている京成電鉄が、再建のため、優良資産である谷津遊園を日本住宅公団へ売却する方針を決めているからだ。いまのところ、来年十二月末で閉園の見通し。同遊園だけをかきつめてみた場合、黒字経営だけに、「なぜつぶしてしまうのか」と、地元を中心に強い反発が起きている。

セイタカシギ物語

NHK-TVロータリー班に
謝意を表す(2)

16mmの撮影は、前年の経験より、どうしてと欲しいと思っていた。京葉ホングの小林さん・NHK・東京支部の川田さんといふこの三者に決めていた。しかし、皆ソイヤカーの人慮ばかり。中々日程のやりくりが大変で、まあ三つあれば、何とかやつていけたらと思っていた。私は、皆さんを十分信頼して頂いた。三者三様の分野、あるいは立場があつたといふ思っていた。

勿論、守ることを承知してく水、やたらに「その場」をはなれたい事を約束して来た。だから、誰が何日、いつ、どこでという具合にわかり、守っている有志の人達へこの又皆仕事をしていること共に、見張りの計画が立てられた。

ここではっきり書き残しておかねばならぬ。干潟を守る会や、野鳥の会の人々が何と言おうと、セイタカシギを守ることにおいて、その日数、時間と、更に多大の役割を果してく水たというのを。仕事や個人の生活を、

皆少なからず犠牲を覚悟で守っているのだ。現地で守る人、余りにも、本当に悲しい程になかったのであ

る。とにかく、来てくれた人がいなかったのである。セイタカシギの安全にとって、何よりも必要なことだ。ど小規模理解されて、地元団体は私産やNHKの悪口を言うのであろうか。私だって仕事はよく休み、収入はかなり下がり、繁殖調査の、葛張半介・葛西・柳安を、くやしい思いで切らぬばならなかった。国松氏も、どうな理由でか知らないが、「セイタカシギの為に車を使いたい、借りたいから世話してくれ」というので「もうたが、途中から毎日の人と共に、自由にコロニーやセイタカシギをとしようになつていった。有志だから仕方がないと思つた。氏がこの現地の苦しさも、とつと何故説明しなかつたのかと思ふ。氏が撮影に専らになり、私に、「ちゃんも見張らなければダメだよ」と言つた時、私はどうこの人慮をあてにできなかった。



茂みのかげで風をよけて休むセイタカシギの親子=6月19日写す

セイタカシギ ヒナニ羽スクスク

幕張に飛来、親の保護のもと

今年もまた筑波野鳥の里の地立にセイタカシギが渡来して千葉生まれのヒナ羽がいま元気に育っている。飛来したのは習志野市・谷津干潟近く、千葉市野鳥の里の地立。八羽の親鳥がやってきて、このうち二羽が習志野市・谷津干潟の地立地区で三羽のヒナがかえった。習志野地区でも四羽の卵をあたためている。すでにヒナにかえる期限をこえているため、二世の誕生は絶望的だが日本野鳥の会千葉支部(支部長・石川敏雄千葉大教授)の会館からは、親鳥のひたむきな姿勢に心打たれて静かに観察をつけている。

セイタカシギが谷津干潟近くに飛来していることは五月二十日に同会館らによって確認され、その後、市川市に住む野鳥観察家、森田三郎さん(会)がその行方を追っていた。その結果、六月に入って幕張地区で三羽の卵を発見、十七日から次々にふ化したという。森田さんは昨年ヒナがかえるとの報告を受けて「昨年のもうかえってきたのでしよう。色どが動作でわかります」とうれしそう。同支部はセイタカシギのふ化の報告をかねて県に「埋め立て地に少しでも多くの自然環境をもつ環境を確保していただきたい」と三回陳情した。

54.7.3(毎日)

◎千潟を守る会や千葉支部の人かどう考えようと、私は、事実を事実として記しておきたい

現地でする私産と

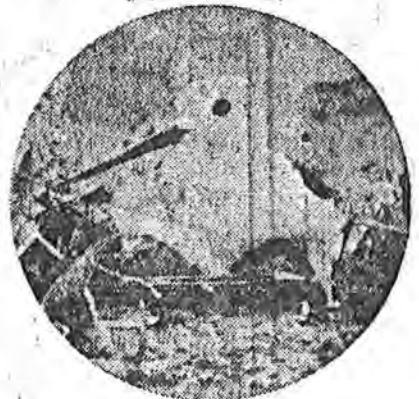
地元自然保護団体の対立

私が作った竹とヨシの小屋からは、セイタカシギが高く飛ぶか、あついは小屋の前にと来たり限り、その姿を全く見ることが出来なかつた。何故なら、小屋は、鳥を見ることが出来なく、セイタカシギの安全の為、すなわち、小屋に近づく人を見ることが出来たのである。だから、小屋に最も都合の良い所に作った。セイタカシギを見る人を見る、為にとというのが目的であった。

千潟を守る会や野鳥の会千葉支部の一部の人から、「森田さんは、小屋をんなか勝手に作って、セイタカシギのすく近くで見つりてくせに、いーい」という非難が上がっていたが、これらの地元自然保体だと自負して、いる人たちは、殆んど現地に来とせず守ることゝもなかつたのである。

千潟を守る会や千葉支部、とくに幹事の人産は、あの埋め立て地の真只中、夏は暑い暑くて長い夏の毎日、その一日ずつの積み重ねに、現地のセイタカシギを

珍鳥セイタカシギ 今年も飛来

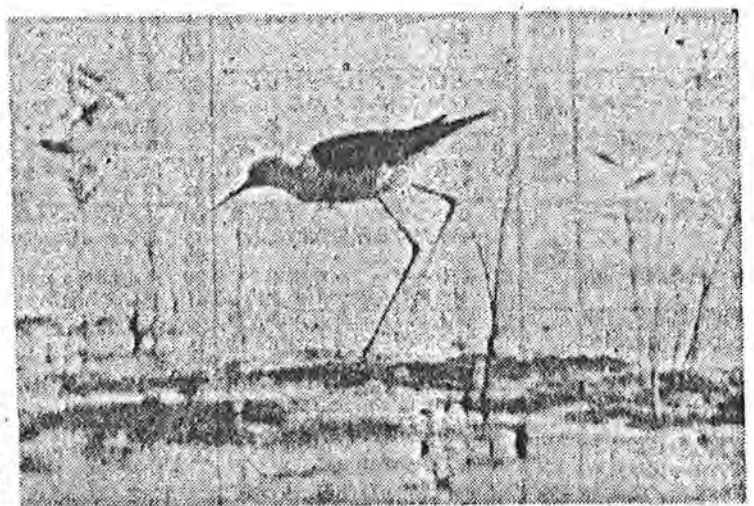


珍鳥セイタカシギが今年も東京湾・谷津干潟の習志野、幕張両埋め立て地で確認された。ヒナ三羽、ツガイ二を含む十一羽で、これだけの数が発見されたのは日本で初めてという。日本野鳥の会石川敏雄支部長は、「一羽発見者は市川市に住む森田三郎さん。趣味で野鳥の生観を続けており、野鳥会のメンバーとも顔なじみ。」と確認されたセイタカシギは一年前同じ習志野埋め立て地に飛来集つたり、かえしたヒナ四羽の合わせて六羽と別のセイタカシギ三羽、習志野埋め立て地には一ツガイが数羽、幕張にも一ツガイとふ化したヒナ三羽が住みついている。さらに四羽は埋め立て地の間を歩き来しているのが確認された。

守る為に、いかに多大の労と心をツィヤしたのか、少くでも知るうとしたのであろうか？。両会の代表・会長である大沢氏と石川氏は、やってこれらりの幹事の方々は、有志からなる数人のグループと、見守ることに少なからぬ協力をしてくれたNHK・TVロータリー班をはじめとする人産がいなければ、京葉港と幕張のセイタカシギの卵すら、とらへて消失していったという事実を、なぜ知り、理解しようとしないのであろうか？。全てを最もよく知る者として、以上のことはいく多の事実を、とくに断言せざるを得ないのである。両会よりと全く比較にならない程の日数と時間を守つてきたNHKの人に、何を根拠に、何の理由で千葉支部の人は「出て行くわ」と言えるのだらうか？。私は意見でなく事実を言ひく。

ツガイを含む11羽

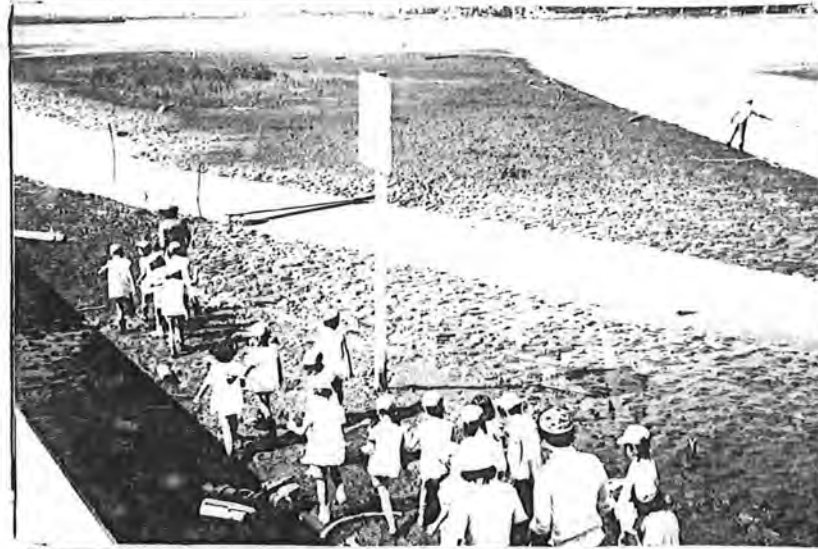
野鳥会 谷津干潟、環境保全を要望



イタカシギ。特徴は長いクチバシとちりちりとした足。生息地は北アフリカ南ヨーロッパ、中央アジアに多い。しかし日本ではまれで昨年、同種で発見されるまでその姿を見たものは数えるほどだったという。当然、営巣やヒナの成長は多し。

日本野鳥の会石川敏雄千葉支部長は「同所は道路(二四号線)の両側で四十四方の水たまりで、埋め立て地の浮き層につくられていて、環境的にはあまり好ましくない。埋め立て地の今後はエサのヒメハシ(シヨウ)虫が繁しよくセイタカシギにとって都合がよかったのは」といふ。

谷津干潟はこれまでにもシロチドリ、コチドリ、コアシギなどを、チドリ目鳥類が多数繁殖、採餌(じ)、休息場として好適な環境鳥獣保護区指定の計画も進められている。このため同野鳥の会千葉支部で毎年、セイタカシギ二年目繁殖を確保し、繁殖期に「自然環境の保全について」の要請書を出し、こどもセイタカシギの生息を確保、見守っていくという。



ふかんど

第79号

1981.10.13

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話 0571-511666
 文責 森田三郎

会費年2000

創刊
 1980.6.3

まず干潟の生きものとの
 融れ合おう

9月の暑い日だったので、まだカニがたくさん出ていた。干潟の中へ入ると、どう子供たちは自分ですんでいた。

写真は52年当時で、ゴミが目につく。しかし今は、これよりかはるかにきれいだ。干潟の中

に立っている看板は、私が立てた130本の中の一つである。51年の冬、強い寒波の襲来した年に、谷津干潟のまわりに立てた。谷津干潟のそばに行ったり、いかなる所であろうと、必ずその看板

が目に入るように立てた。当時においては、一般市民の間には、まだ「谷津干潟」という名前すらあまり知られていなかったからである。ここでは、保護運動として、決定的な弱みだと私は考えたからだ。その為、干潟の所に行った人は、「ここが何という名前の所だ」、「どんな所だ」、「何が目的なのか」、いかに書いた看板を必ず、見ざるを得ないというところが、そのネライだった。

そしてそれは、私、森田が企業方とやりとりする最初の、手合わせ、みたいなのだった。

この日、子供たちがより遊ばやすくするというのが、私産の目的だった。南ぎたいことは、子供の方からやって来た。残念なことに、私はGPSと松葉杖の為にハシゴを使えず、堤防の上のほうからただ見ていただけだった。

八海は水はしょぼく、魚や貝は平気なのか不思議だった。V

裏切られた子供の世紀

◆…来年の国際児童年を前に…◆

来年は国際児童年。国連の児童の権利宣言が採択十一月二十日、されて二十周年にあたるが、現状は果たして子供の方向へと進んできたのだろうか。国際児童年を前に、大社会へ訴える。

形だけの行事では

国際児童年が始まる。聞くところによると、政府は「世界と日本の子も歴史を眺めよ、各都道府県で児童会議、児童問題功労者の表彰などを行い、海外に向けては「国際フェスティバル」やアジア諸国への「子どもの船」の派遣などを立てているという。

例によって、国際的な行事には形だけつきあっておもしろいというものが、ここにも現れている。こんなもので、実質、子



毛利 子来

完全な大人の従属下に 「強制」の解放では救われぬ

が加えられるようになった。遊びが承認され、学習の機会が保障されたのも大きな収穫といえる。だが、この「解放」は、実は、近代の合理的産業と組織的國家に代るべきものとして、完全におとなの従属下に入ったのである。

この状況においては、「子ども」の存在が、ますますかれを支配する結果をもたらすのは必定である。「健康を守る」のが、医師や心理判定員による診断の徹底であり、治療や生活規制の強制となる。「福祉の充実」は保育所や障害児施設を増やすであるが、その子どもたちは、いまだに「保護」を受けるために「教育の保障」が学校の絶対化へ、そこから「落ちこぼれ」を必然とする。そして、おとなが社会への身をもつての抵抗は、(児童)として処理される(今)回の行事のひとつに「全国少年非行防止運動の推進」があげられているのは、これを端的に示すものである。

非近代性に価値を

地球上には、食うや食わすの子どもたちがいるというには、日本の状況の是非を問われるだろう。そして、いわゆる「低開発国」に目を向けさせるキャンペーンは、不評と反抗を買っている。経済的正当化の論議すら自わされるだろう。「題名なし」子どもたち(教育)活動や、そのための資金は、現地の風俗と習俗を踏みにじり、近代文化の「押しつけ」ははたかたな。

これらは、子どもの「解放」が近代の意識に立っているかぎり避けてはならないことだ。合理的産業と組織的國家の発展を至上とする近代は、アフリカなどの諸民族を「低開発」と認識し(図)「近代」によって、かれらの生活と文化を根こそぎ同化させておいて、事情がある。おとなたちは「分析」きた。「低開発国」との交流は、(計画)システム化(標準)自然性への畏敬をもちたすもので、(結合)して管理に魂を奪われて、あつてよいし、日本の子どもたちは、(結合)したままに、また結合的感に對する理解は、おとなの反からの中からは「先進国」への(結合)と人間への一体化、そして、省と文化の転換への契機となつて、追隨を排して、独自の発展を試みては、(結合)と個別、よい。そうしてこそ、裏切られた「子ども」の世紀も、新しくよま(性)保っている。

国際児童年、こうして「非近代」が来ることを恐る(小児科医)

この記事がオラと言つて改めて考えたわけではなりが、実は、一年程前に見たテレビをことを想ひ出したからだ。

NHKで、確か大井の野鳥公園での、観客つ会として、番組があった。「みなさま、あーん、ここで鳥を見ることは学校の勉強よと察しつてすかあつ」すると子供リッセルに「ハアアアッ、これは何という名前ですか?」、「○○でえーす」。「皆んなねえ、これはこれこれ、ウーラもんだから、こうしてはりけませんよ、ハアアアッ」。やういう具合に、裏に行

ガの良リ、整然とした観客会であった。単行動したり、リーダーを困らせたような子はひらひら。

私は最後まで見ていた。リーダーも、自分の引卒にきちんとして来てくれた子供たちの言動に、当然と思えるふうだった。私は自分の子供時代をふり返つてみて考えた。とうとうこういふ観察会には馴れぬなりの思った。尻尾を巻いて逃げまわらう。干潟や野原で遊んだが、かと言つて「好き」だと意識していたわけではない。勉強とある事かきかけで、干潟や野原以上にリッセルかかれた。「知の世界」の才を好きになつていった。

ずり相



干潟のカレ使

「天才への道」
萩原 中
人間の完成
オーヴァーストリート
面白の本

へ海の中に入って、海藻をいっぱいかかえ込んで来て、干潟の上へ投げ出すと、魚やカニが小た。▽

ふかんど

オ80号

1981.10.13

支 272 谷津干潟愛護研究会
 市川市北方二丁目三五と六
 電話 ☎ 0476-31-1666 八
 森田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3

S.56.10.12.(A). 割喉時. PM1.00
 自身の都合で探鳥会に参加できず、久しぶりに
 本日、単身、当地へやってきました。
 若狭回地村下車。ここは「あいのこ」が、
 変則したおこ。
 学校をいとし、道路工事はいし……。一見近
 代的な設備の公園に思われぬ。
 自然破壊も甚しい。
 全く残念でありません。
 間に合えば、八津遊園^{の土地}は住宅公園と売却
 されしか。
 増地の苦労が又ひとつ増えられた。
 何れも、この干潟は残すべし。
~~干潟~~ 意がべしとも仕事もあつたが、干潟
 口先だけで、何か「おかしな」干潟
 保護のため、一層の認識をいやすべし。
 茨城市 林博孝

すみません、林サン。ぼくらの力が弱い
 ばかりに、こんななっちゃって……。
 ええーそんなんで、ここにきて又、苦勞
 させていただく事が一つ増えました。
 この前私ですゆえ、半年ほど前なんです
 が、谷津干潟のまわりをぐるりと見まわし
 まして、クレートンなどの重キ類がありま
 すゆえ、ほら、遠くから見てと高あーの
 やつ。いやに多いなあと、試みに一
 本、数えてみたんですよ。そしたら、
 え、谷津干潟の近くの、そのまわりだけ
 ねえ、38本もあるんですよ。その他をい
 っさい含めなつですよ。あ、あれ
 産いこん中だ。カンバッテン、のかなあ
 して、オレため息か出ちゃってさあー。



急ピッチで進む
 東京湾岸道路
 写真が秋津地区です。来

年3月頃、高速
 部分が開通の予
 定です。
 完成すると、
 東京、神奈川

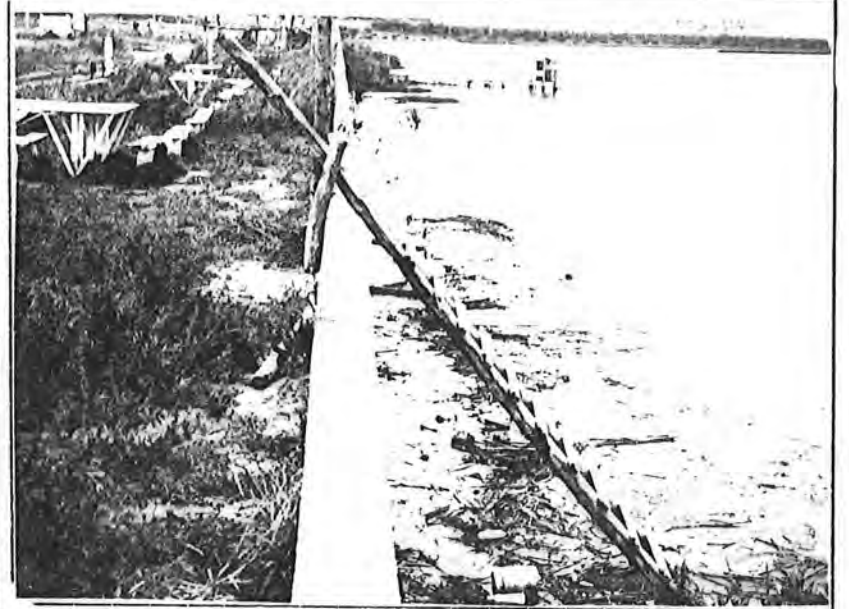
からと今まで
 よりもはるか
 に少り時間で
 谷津干潟に
 来られます。
 埋め立て地も
 街らしくなっ
 て来た。これ
 からとって来
 る人が増える。

谷津干潟のまわりを歩くと・・・



お木えーっ、また来てこんなことやってるいよあー、この人あ。ここのとこ毎日網を張ってるんだからわえー。

名前、リーワ。とにかく、ザ・グリーン
D・オブ・ザ・PLANTだろ。

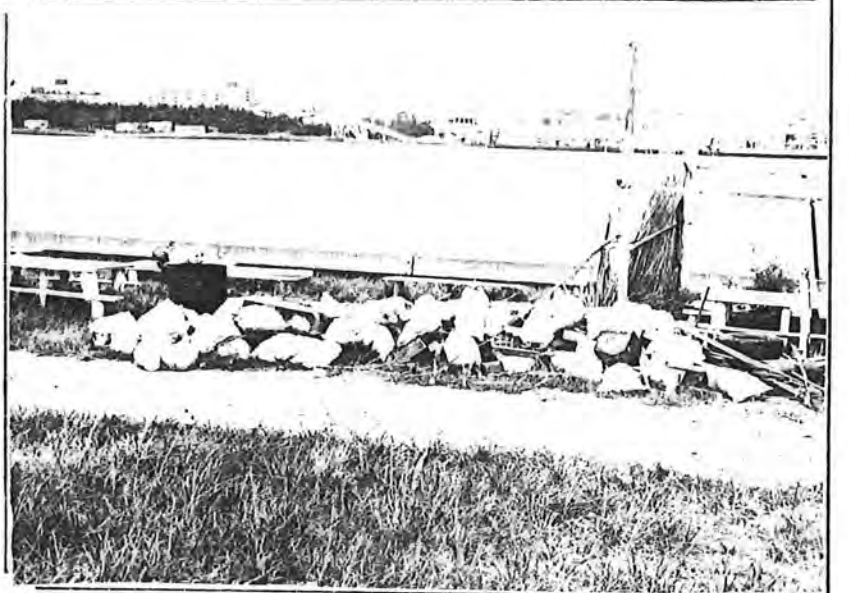


子供たちが、ハセヤカニをとりにたくさん来るので、私産は四ヶ所に作ってやった。



名前、リーワ。とにかく「草」にはちがひなからう。秋園にユラ／＼ゆれ、トンボがとまろうとしていたんだ。

これは、ススキだ。チドリやシギの声を聞きながら、ゆれるのを見るのとい。



このゴミは3週内分です。でもここだけでなくるヶ所もある。まだその他にもいっぱい。

八海と土手道を境にした池の中のヨシ野に海草がフマウツリで、手足をよこす魚がさわ

ふかんど

号 81

1981.10.13

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
 電話 〇四七 一六六六六八
 支責 森田三郎

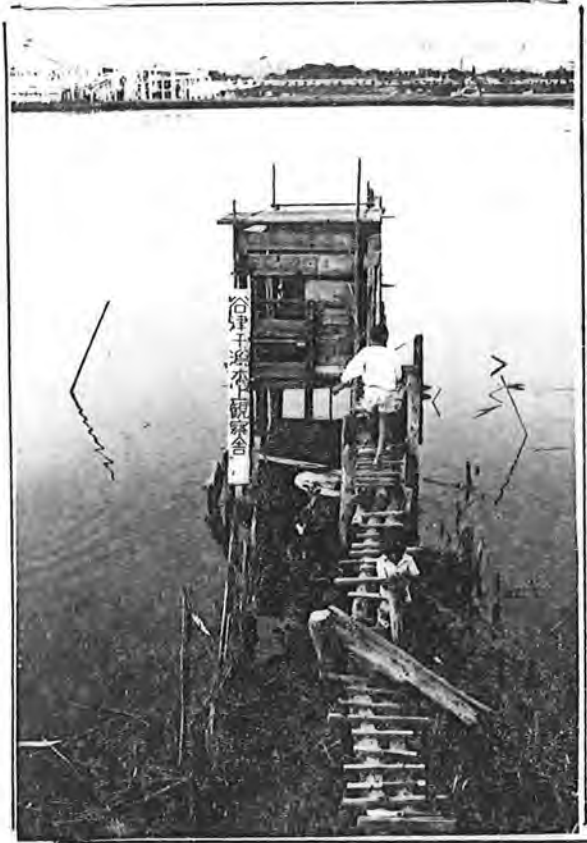
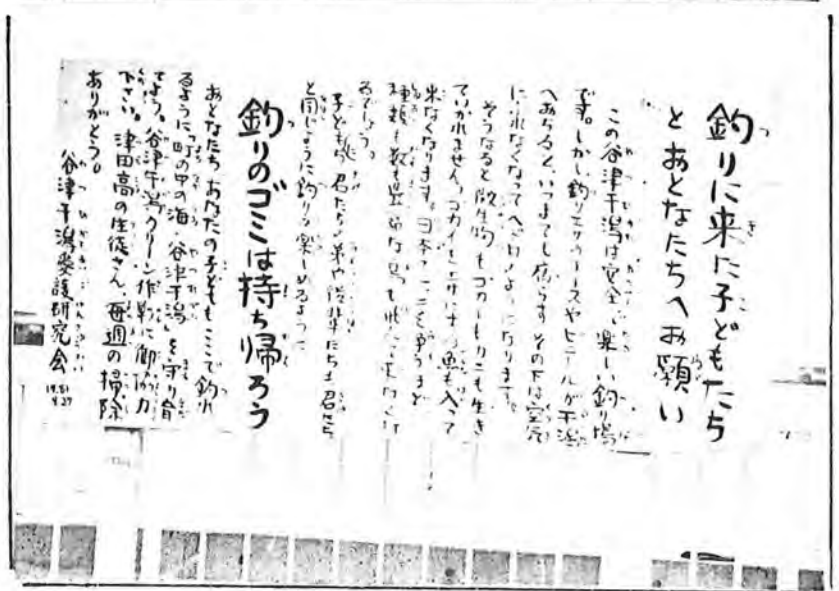
会費年 2000

創刊 1980.6.3



看板コンテスト (一部分)

こみみんな、流木な
 んです。とにかく、材
 料は豊富なんで、後
 から後からひっきりな
 しに、御用度に応りま
 す。ある会員、「森田
 さんよあ、オレ最近看
 板の字書くのあ、自信
 持つてきちやったええ
 なんです。皆さんは
 ど木がいいですか？」





(読者新聞)

56.10.13

<1530>

野見山暁治

のみやまきょうじ

(画家)

ボタ山の心、原点に

を描いた八四百字のデッサンが、三年前、エッセイストクラブ賞に。義弟の直木實作家、田中小具昌顔負けの文章家である。原稿用紙もキャンパスも同じ。大切なものは、「生まれて初めてモノを見るような驚きの目、でしようね」。

プロにならたら、本當の絵かきではない。「ゴッホやセザンヌら天才たちは、最後まで素人」——現代美術への流れが、小気味よいデッサンで鮮やかに。六十歳。この三月、東京芸大教授をやめた。定年まで七年を残して。

「十二年間、学生から教わっていたようなもんですから……」。柔和な顔に、時間をもったいない、と書いてある。凛然として、いるが、心は、川筋もんと見た。

——次回は藤宮修一氏——

楽園とはいかにぬる干潟

甘い見通し 欠陥だらけ

淡水源は雨水だけ よどみがちな水質 水鳥の生息に不適

新浜研究会が報告

野鳥の楽園といわれた市川市の旧新浜海岸の埋め立てと引き換えに、同地区に造られた全国でも珍しい野鳥のための「人工干潟(ひがた)」に關して、第一回の生物調査報告書がこのほどまとまった。果の委託を受けて大学関係者や野鳥愛好家などが干潟が完成した昨年からの一年間にわたって調査した中で、項目は水質や植生、プランクトンや水生動物、魚類の生息などに及んでいるが、報告書は結論として「計画の段階での見通しが正確でなく、またまた水鳥の生息地としては適していない」と述べている。

報告書をもとめたのは東邦大海洋生物研究室の風宮利夫助手、干潟の野鳥観察台を管理している遠尾純子さんら十八人で構成している「新浜研究会」。調査期間は、去る三月までの五年度分。この干潟は地下鉄東西線行徳駅

南約一・五キロに広がる五十二ヘクタールで、北隣には宮内庁新浜御用場がある。干潟の造成は四十五年から始められ、昨年三月に完了した。公有水面だった画を沖の海底土砂で埋め立て、中央部分を頂点に遠浅の地形にしたり、東浜湾と結ぶ三本の水路を造って潮の干満を伝える工夫をした。また、潮解時でも海水がかぶらない中央部分の一角には、干潟の淡水源として、雨水や地下水を利用する予定で淡水池も造られている。

干潟を伝えるのは一本の水路だけで、北隣には宮内庁新浜御用場がある。干潟の造成は四十五年から始められ、昨年三月に完了した。公有水面だった画を沖の海底土砂で埋め立て、中央部分を頂点に遠浅の地形にしたり、東浜湾と結ぶ三本の水路を造って潮の干満を伝える工夫をした。また、潮解時でも海水がかぶらない中央部分の一角には、干潟の淡水源として、雨水や地下水を利用する予定で淡水池も造られている。

干潟を伝えるのは一本の水路だけで、北隣には宮内庁新浜御用場がある。干潟の造成は四十五年から始められ、昨年三月に完了した。公有水面だった画を沖の海底土砂で埋め立て、中央部分を頂点に遠浅の地形にしたり、東浜湾と結ぶ三本の水路を造って潮の干満を伝える工夫をした。また、潮解時でも海水がかぶらない中央部分の一角には、干潟の淡水源として、雨水や地下水を利用する予定で淡水池も造られている。

干潟を伝えるのは一本の水路だけで、北隣には宮内庁新浜御用場がある。干潟の造成は四十五年から始められ、昨年三月に完了した。公有水面だった画を沖の海底土砂で埋め立て、中央部分を頂点に遠浅の地形にしたり、東浜湾と結ぶ三本の水路を造って潮の干満を伝える工夫をした。また、潮解時でも海水がかぶらない中央部分の一角には、干潟の淡水源として、雨水や地下水を利用する予定で淡水池も造られている。

新浜の教訓、その口にする人は多い。しかし、それを生かしている人は何人いるだろうか？。この7年、私の知る限り、それを生かしている人、あるいは団体は殆んど、否、全くと言ってよい程いないのである。逆に、現実には、それを埋めついでに、殺してしまっている。と考へざるを得ない。

おおよそ教訓などというものは、生かさないければ、生きないのである。自然緑地の獲得、埋め立て地の野鳥などで生かされたのは、組織のイゴであって教訓ではなかった。

では逆に粘土の粉末が遊遊して、この原因となり、砂地を好む鳥類の成育に不向きな欠陥のひとつだといふ。調査は調査も五十二年度分として行われているが、「東浜湾との連絡水路の増設や淡水の増設対策など、できるものから積極的に調査しないと、機能はほとんど低下する」と風宮利夫助手は警告。

カモ類の飛来はこれから本格的になり、十月現在、干潟には百羽前後のマガモの群れや三羽羽ぐらゐのウミネコの群れが見られる。昨年の冬はオオハシチョウ、ダイセン、キアシシギなどの珍鳥もやってきた。「しかし、いずれも個体数は少なく、すぐ飛び去るのが常であった。これらのすべてが定着しなければ正常な干潟とはいえない」と報告している。